

令和元年度

飯田OIDE長姫高等学校

「地域人教育」活動報告集



長野県飯田OIDE長姫高等学校
Iida OIDE Osahime High School

商業科

飯田OIDE長姫高等学校「地域人教育」の未来について

飯田OIDE長姫高等学校長 原 康倫

本校商業科の「地域人教育」は、平成23年度末に飯田市、松本大学、本校との三者間で「飯田長姫高等学校地域人教育推進に係るパートナーシップ連携協定」を締結し始めました。平成25年度に飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の再編統合により本校が開校し、この教育資産を継承して8年目の取り組みとなりました。



「地域人」とは、地域を『愛』し、地域を『理解』して、地域に『貢献』する人財（たから）」と定義しています。本校と松本大学、飯田市が、相互の教育方針や人材育成方針を尊重しながら協働し、相互により高い成果をあげられること、10年後を見据えて、住みやすく暮らしやすい地域のあり方を創造できる人材育成を図ることを目指しています。

この「地域人教育」をはじめ、各学科の地域と協働した様々な教育活動が認められ、本年度から3年間文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（プロフェッショナル型）の研究開発校として採択され、学科毎に地域産学官で構成されるコンソーシアムを構築し、更なる未来を見据えて実践研究を始めています。

この事業では、「地域協創スペシャリスト」の育成を目的とし、そのための「専門力」「課題解決力」「協創力」を身に付けることを目標にしています。自らの専門性を高めることに重きを置きながら、他学科の専門性も認め協働し自らの専門に取り込むことで、新たな付加価値を創造できるプロフェッショナルの育成を目指しています。

具体的に、工業科にもこの地域人教育の良いところを取り入れ、ものづくり地域人教育を始める取り組みや、1年次の普通科目の中でも地域課題解決学習を行う上での基礎となる知識や技能を学ぶ工夫、地球規模での環境保全についてもものづくりやビジネスの諸分野で意識し持続可能な社会づくりに貢献する取り組みも包含しています。

商業科でのこの「地域人教育」そして「課題研究」は、それら未来への取組の源泉であり拠り所である根幹のシステムとなっています。連携先である飯田市および松本大学ほか地域の皆様のご支援ご協力に心より感謝いたしますとともに、生徒の未来のために、今後の地域人材育成への協働体制の継続と、さらなるご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げ、巻頭の挨拶といたします。

「地域人教育報告書 寄稿文」 飯田市長 牧野 光朗 様

地域人教育を受けなかった高校生は、その後どのような人生を送るのか考えてみました。

—いい大学、いい会社に入ればいい人生が送れると信じてひたすら受験勉強に取り組んだ地方の若者が念願叶って大都市の大会社に就職はしたものの、待っていたのは長時間満員電車で詰め込まれる毎日や、転勤辞令の紙一枚で余儀なくされる家族との別居生活。しょぼくれて田舎に帰ると、そこもすっかり寂れてしまっていた—

これは、一体どこで間違えてしまったのでしょうか。

私には、柔軟な思考ができて感受性も豊かな高校時代に生まれ育った地域のことを何も学ばずに地域を離れ、出身地がどんなところか問われても答えられるものが無いのに、若気の至りで「何もない田舎」と言ってしまう、自らもそれを信じてしまった過去があります。今振り返っても赤面ものですが、こうした状況は高校卒業後故郷を離れてしまった数多くの若い人に当てはまるのではないのでしょうか。

右肩下りの時代であっても、このような負のスパイラルに陥ることなく、若い人たちが心豊かな人生を送りながら、生まれ育った地域も将来を担う人を確保できるようにするためには、高校卒業までに自分の地域を深く学び、地域としっかり向き合える場をつくる必要があります。これが飯田市が取り組む「地域人教育」のベースにある考え方です。

地域人教育を受けた若い人の人生はどうなるのでしょうか。

—地域を学び、地域に愛着を持った若者は、高校を卒業しても地域との関係を持ち続け、やがて子育て世代になる頃には、自分の子どもは自分の故郷で育てたいと考えて帰郷し、地域を担う人となる。その子どもたちも地域人教育を受け、一旦はこの地を離れても子育て世代になる頃には帰ってくる。こうした「人材のサイクル」が構築されることで、地域には子どもから年配者まで多世代が住み続け、持続可能な地域が創出される—

地域人教育を受けた皆さんの様々な経験が、今後の人生の糧になることを祈っています。

「学びの概念を変える地域人教育」 松本大学 観光ホスピタリティ学科 大野 整 様

昔から「そもそも勉強は自分でやるものだ」と言われてきました。当たり前のことですが、確かにがむしやらに勉強を強制しても良い学びなどは成立しません。いわゆる「スパルタ教育」などという言葉もそれにあたります。前述の言葉を教員の立場からすれば、「勉強は自分でやりたくなるもの」というふうに言い換えればいいわけです。そう思う生徒が育てばいいわけです。「主体的な学び」などという言葉掲げても、本質を忘れてはどうにもなりません。

長年、上から目線で教える教育が続いてきたように思います。教室に教壇があり、教師はそこに立ち黒板に向かってとうとうとしゃべり続ける。生徒はわからないまま、ノートにそれを書き写す。明治以来、学校（教室）の姿ほど映像として変化のないものは他にありません。私はそれを「富国強兵時代の教育」と勝手に呼んでいます。時代が変化しても全く変わらない教室という空間の中で教えていると、その行為や内容に疑問を持たない教員がいたとしても不思議ではありません。

社会が加速度的に変化する中で、残念ながら教員の守備範囲では教えることのできない内容がたくさん出現してきました。しかしながら教員が教えるということに助けを求め、外に向かって叫ぶことは大変勇気がいることです。どうも教員という職業はそれを許してはならないという風潮があるようです。

40年以上前、大学を卒業して某県の教員採用試験を受けた時のことです。面接で「教員という職業はスペシャリストだと思いますか」と聞かれたことがあります。もちろん答えは「YES」だったのでしょうか。ところが私は素直に「YES」と答えられなかったことを記憶しています。たしかに教員は教育のプロでなくてはならないでしょう。しかし「教員はスペシャリストでなくてはならない」という考えが間違った方向に歩き出したとき、それが障害になる時もあるわけです。人から教えるを請うことができなくなる人がいるからです。こういう人は生徒から教えるを請うなどとはもってのほかだということになります。

そろそろ教える側と学ぶ側を対立軸で捉える教育を考え直す時期ではないのでしょうか。これからの学びのスタイルは、様々な場面で、様々な人に教えるを請うことが必要です。スペシャリストは社会のあらゆる場面のあらゆる場所に存在します。そのことを生徒に気が付かせることは、教員の価値を下げることにはならないでしょう。むしろ生徒に多様な価値観を学ばせる大切な教育になるはずです。

地域人教育は、前述した古い学びのシステムを変える糸口を我々に示唆しているように思います。それは、教える側と学ぶ側を固定概念では捉えていません。生徒の学びたい、知りたいという気持ちを大切にしながらも、教員、生徒、地域の人々が互いに学びあう、与え合う教育を生み出してきているからです。私は真の学力とはそのような場面から生み出されるのだと思っています。

令和元年度
飯田OIDE長姫高等学校「地域人教育」活動報告集
目 次

巻頭言≪飯田OIDE長姫高等学校長 原康倫≫	1
飯田市・松本大学より	2
地域人教育とは	4
地域人教育の取り組み	11
1 学年「地域人教育」	12
2 学年「地域人教育」	17
3 学年「課題研究」各グループの活動報告	
3 年生地域人教育計画	22
橋北地区	24
橋南地区	30
東野地区	36
座光寺地区	42
松尾地区	48
竜丘地区	54
鼎 地 区	60
テーマ型研究①（飯田市の魅力発信）	66
テーマ型研究②（高校生居盛屋）	72
テーマ型研究③（スパイスカレー）	80
地域人教育に今年度ご協力いただいた方々のご感想	86
成果発表会（ポスター・プログラム）	88
地域人教育PR（Facebook・ポスター）	90

地域人教育とは

飯田OIDE長姫高等学校「地域人教育」

沿 革

2012 年(平成 24 年)	4 月 18 日	飯田長姫高等学校・松本大学・飯田市による パートナーシップ協定調印式 於：飯田市役所
2012 年(平成 24 年)	4 月 18 日	「地域人教育」開講式(商業科 1～3 年生 240 名が参加)
2013 年(平成 25 年)	4 月 1 日	飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校 統合 →「飯田OIDE長姫高等学校」となる
2013 年(平成 25 年)	4 月 26 日	飯田OIDE長姫高校・松本大学・飯田市による パートナーシップ協定調印式 於：飯田市役所
2015 年(平成 27 年)	5 月 9 日	牧野光朗飯田市長による特別講義(商業科 3 年生 78 名が参加)
2015 年(平成 27 年)	12 月 25 日	課題研究発表会 ～「地域人教育」の取組とその成果～ 於：鼎文化センター
2016 年(平成 28 年)	4 月 20 日	長野県教育委員会「21 世紀型教育モデル校」に指定される
2016 年(平成 28 年)	12 月 22 日	地域人教育 成果発表会 地域連携教育とまちづくりのあり方を考える研究会 於：鼎文化センター
2017 年(平成 29 年)	4 月 26 日	地域人教育推進委員会を組織する。以降、定期的に会を開催
2017 年(平成 29 年)	6 月 23 日	飯田下伊那地域 地域おこし協力隊員による講義
2017 年(平成 29 年)	11 月 16 日	第 25 回全国高等学校生徒商業研究発表大会 参加及び見学 商業研究部による飯田水引の研究が「優秀賞」に選ばれる (商業科 1～3 年生約 240 名が参加) 於：ホクト文化ホール
2017 年(平成 29 年)	11 月 24 日	文部科学省職員視察調査 高校生を対象とした学校教育と社会教育が連携した教育実践
2017 年(平成 29 年)	12 月 22 日	地域人教育 成果発表会 地域連携教育とまちづくりのあり方を考える研究会 於：鼎文化センター
2018 年(平成 30 年)	1 月 11 日	第 11 回キャリア教育優良教育委員会、学校及び PTA 団体等 文部科学大臣表彰
2018 年(平成 30 年)	8 月 20 日	文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革の推進」 全国の先進的な事例として紹介される
2018 年(平成 30 年)	12 月 21 日	地域人教育 成果発表会 於：鼎文化センター
2019 年(平成 31 年)	4 月 3 日	文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 プロフェッショナル型」に採択される(令和 3 年度まで)。
2019 年(令和元年)	8 月	ベネッセ教育総合研究所月刊誌『VIEW21』にて紹介される
2019 年(令和元年)	12 月 24 日	地域人教育 成果発表会 於：鼎文化センター
2020 年(令和 2 年)	1 月 24 日	長野放送「信州・学びの改革～主体性・協働性・創造性を育む」 にて紹介される
2020 年(令和 2 年)	2 月	リクルート進学総研月刊誌『キャリアガイダンス』にて紹介される

地域人教育

飯田OIDE長姫高校で展開している「地域人教育」は、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育み、地域活性化や地域社会に貢献できる人財を育成する教育プログラムです。飯田市と松本大学と飯田OIDE長姫高校は2012年に協定を結び、互いに協力しあって「地域人教育」を進めています。

伸ばしたい力 → 自分で考え、行動できる力

主体性
自律性

企画力
実践力

協働性
Win-Win

地域理解
持続可能な地域

郷土愛
誇り

育てる人財像 → 地域の産業、暮らしの中核を担うリーダー

地域のヒト・モノ・企業をつ
なぎ、仕事を創る職業人

地域資源を生かした新ビ
ジネスの起業家

地域活動に参加し暮らしと
文化・伝統を支える社会人

住民・企業と協働して課題
に取り組む行政リーダー

3年間のカリキュラムマップ



地域の専門家から
現地で学ぶ



大学の先生から
地域について学ぶ



地域の方とのイベント
準備、実施



野外でのブラレール
(大盛況でした)



フィールドスタディ
(地域の方に聞く)



地域の魅力、課題を
まとめる、発表する

1 年次 目標 地域を知る

1, 2学期

フィールドスタディ

飯田市の中心市街地を練り歩き、街の人から地域の魅力や課題を教えてもらうとともに、自分たちでも発見をします。

3学期

地域に関する講演

松本大学の教授による地域連携に関する講義のほか、地元の経営者、金融、行政の専門家から学びます。

学びの積み上げ

2 年次 目標 地域で活動する

通 年

地域イベントへ参加

地元で行われるイベントに運営者として積極的に参加することで、世代を超えた協働とコミュニケーションを磨きます。

2, 3学期

商品開発・情報発信

地域資源を生かした商品の企画・開発の取組と、POP、広告、プレゼンテーションなどの情報発信について学びます。



ゆるキャライベント
を運営する



地域の方と協働して
屋台を運営する

3 年次 目標 地域の課題解決に向け行動する

1, 2学期

地域連携企画・実践

地域課題を発見し、地域資源を生かした企画をし、地域の方と協働して実践します。市民向け、観光客向けなど多岐に渡ります。

通 年

地域への提言活動

実践から魅力発信や課題の解決策を市長や地域へ提言するとともに、意見交換することで、次や卒業後の実践に生かします。



生徒によるイベント企画
(花見、スイーツ、お茶会等)



商店街空き店舗の活用
(定期的な喫茶店開店)



市長や地域の方への街
づくりに関する提言活動



生徒自らが、地域の産業人と
協働し、開発した商品の販売

全校課題研究発表会



飯田市
牧野光朗 市長



松本大学
住吉廣行 学長

「ムトス」という言葉に表されるように、飯田には自分たちの地域を自分たちでつくっていくという自主・自立の風土があります。地域人教育を通して、高校生のみなさんは地域社会という「現場」を体験し、そこで活躍している様々な方と出会います。その経験の中で、未来の飯田を担っていただくみなさんがムトスの精神を引き継ぎ「自ら考え行動し、課題を解決していく力」を育んでいってもらえることを期待しています。

高校と大学で高大連携協定を結んでいることに加え、全国でも稀有な高校・大学・行政の三者が協定を結んだ取組で、すでに5年が経過しています。市長自らも講義をされるなど、高校生は少しプレッシャーを感じるかも知れませんが、期待され幸せだと思います。

地方創生を先取りしており、これからのモデル的事業として全国に発信できるように、この取組が成長することを期待しています。

人材サイクル構築に向けた取組事例 「地域人教育」

地域人 地域を「愛」し、「理解」して、地域に「貢献」する人材

平成24年度に飯田長姫高校（現 飯田OIDE長姫高校）・松本大学・飯田市の3者によるパートナーシップ協定を締結。

地域人教育の目的

- 地域人教育を通して結び力を学び、地域理解を深め、地域での生き方を考え、地域愛を育み、地域において活動のできる地域を担う人材を育成する。
- 10年後を見据えた、住みたい、暮らしやすい地域のあり方を創造する人材を育成する。



パートナーシップ協定のイメージ



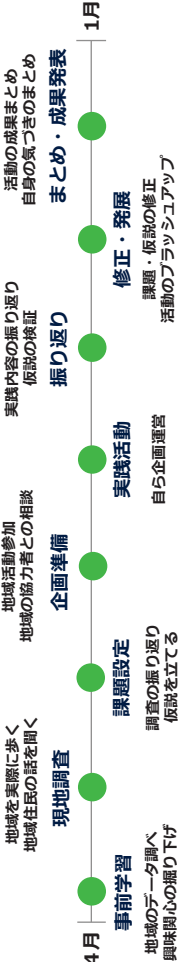
事業展開

- 1年生** ビジネス基礎
「地域を知る・地域の良方を学ぶ」
- 2年生** 広報と販売促進
「地域と関わる・地域に参加する」
- 3年生** 課題研究
「これまでの学びを活かした地域への主体的参加体験」

地域人教育のカリキュラム

学年	科目	学習内容
1学年	【基礎】 地域人教育 (1単位・3.5h)	*講義・演習 外部講師による講義 フィールドスタディ（松本市、飯田市）
2学年	【応用】 地域人教育 (2単位・7.0h)	*「地域でのイベントの運営サポート」 年間6回程度イベントの運営サポート インターンシップを連携企業で実施
3学年	【実践】 課題研究 (3単位・10.5h) 金曜日4～6時間目	*地域づくり・課題解決への取り組み 地域商品開発・販売 イベント企画・運営 地域課題の取り組み（公民館との連携）

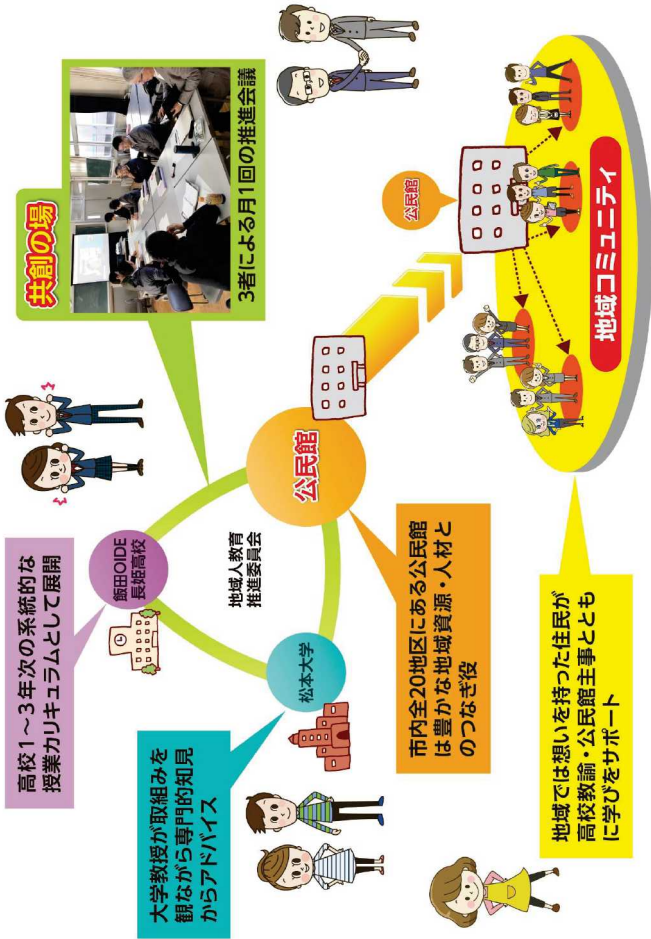
地域人教育（3年生）の授業プロセス



学びを深める要素

- 素直な生き方をしている人との出会い
- 「仲間」の存在
- 必要とされる
- 考えを整理して伝える機会

地域人教育の仕組



まちじゅうが教室

～長野県飯田市 天竜舟下り～



飯田OIDE長姫高校 「地域人教育」

身につけさせたい力＝伸びる力

経営における意思決定要素
(経営学者：ミンツバーク)

学 力

サイエンス
論理、思考、学問

人間性・社会性

クラフト
経験（失敗含む）、実績

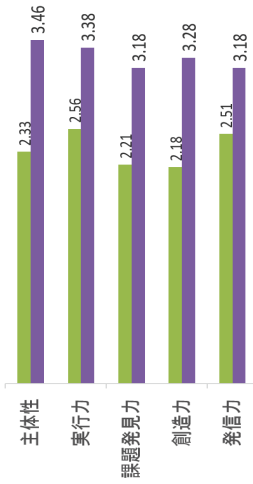
愛郷心・矜持

アート
想い、ビジョン

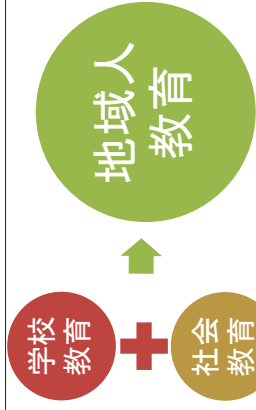
人間性・社会性

クラフト
経験（失敗含む）、実績

地域人教育の基礎学習における
生徒自己評価 (H28.4.10 H29.2.27)
【母集団 1年生 82名 5段階評価による平均値】



地域に飛び出すことで、様々なつながりが生まれる
時間(歴史や伝統、未来とのつながり)
空間(自然や科学とのつながり)
人間(人と人とのつながり)



社会性・人間性が伸びる可能性が高い

実現・充実のために求められる機能

地域：協働者（共育）
家庭：強力な支援者（価値観の転換）
高校：社会関係資本を活用する教育機関
自治体（行政）：政策、財政、法整備

学 力

サイエンス
論理、思考、学問

地域事象

事柄
行為
営み

背景

自然
社会
歴史

心象

人
精神
こころ

学び(教養)

地域社会がつながる
気づき

学力
向上

社会関心力
向上

主体性
向上

愛郷心・矜持

アート
想い、ビジョン

地域における
学習・経験・気づき
を表現する

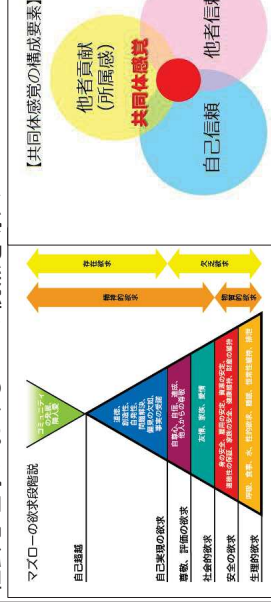
表現する上で押さえておくべきポイント

自己呈示

自己開示

地域の方(他者)
からのフィード
バックの影響大

社会心理学における3つの視点を導入



【マズロー 欲求段階説】

【アドラー 共同体感覚】

【ルフト、インガム ジョハリの窓】

目指す姿：自己呈示と自己開示を組み合わせながら表現しあう集団、学校、地域、家庭
具体的な姿：地域を語り合う、人(背景・心象)を語り合う、変容した自分や友のことを語り合う

飯田 OIDE 長姫高等学校地域人教育推進に関するパートナーシップ協定

飯田 OIDE 長姫高等学校において実施する地域人教育プログラムの推進について、長野県飯田 OIDE 長姫高等学校(以下「飯田 OIDE 長姫高校」という。)、学校法人松商学園松本大学(以下「松本大学」という。)、飯田市は、「飯田長姫高校地域人教育推進に関するパートナーシップ協定」(以下「協定」という。)を次の通り締結します。

1 用語の定義

- (1) 地域人
地域を「愛」し、「理解」して、地域に「貢献」する人材をいいます。
- (2) 地域人教育
飯田 OIDE 長姫高校において、地域人を育てるための教育活動全体を指します。

2 パートナーシップ協定の目的

飯田 OIDE 長姫高校の進める地域人教育の目的とするところは次の通りです。

- (1) 地域人教育を通して結ぶ力を学び、地域理解を深め、地域での生き方を考え、地域愛を育み、地域において活動できる地域を担う人材を育成する。
- (2) 10 年後を見据えた、住みたい、暮らしやすい地域のあり方を創造する人材を育成する。

松本大学は、地域社会に支えられ、地域社会に貢献する、地域密着型の教育を目指し、平成 14 年に開学し今に至り、地域や高等学校などと積極的な連携を図っています。

飯田市は平成 18 年、持続可能な地域をつくり出すための、地域を担う人材やさまざまな分野で活躍する人材を生み出す人材育成のシステムとして、地育力連携システム推進計画を策定しました。そしてこの計画の柱の一つとしてキャリア教育を位置づけ、これまで小中学校において地域や企業を結ぶ取り組みを進めてきましたが、高校生への展開を課題としています。

飯田 OIDE 長姫高校が進める地域人教育は、松本大学の教育方針や、飯田市の人材育成方針とも合致することから、3 者のパートナーシップにより、より高い成果を上げることが狙い、協定を締結します。

本協定は、地域人教育を推進するためのそれぞれの役割分担及び協力の内容を定めるものです。

3 パートナーシップに関する原則

飯田 OIDE 長姫高校、松本大学及び飯田市は、パートナーシップ協定に基づき、相互の情報及び意見交換を密に行い、互いに協力し合って地域人教育の取り組みを進めます。

4 飯田 OIDE 長姫高校の役割

- (1) 飯田 OIDE 長姫高校は、地域人教育の主体として、授業カリキュラムを企画し、実施します。
- (2) 飯田 OIDE 長姫高校は、地域人教育の授業を進めるために、松本大学や飯田市と、情報交換や意見交換、及び調整のための会議を、必要に応じて計画し、実施します。

5 松本大学の役割

- (1) 松本大学は、授業計画へのアドバイス、講師の派遣、その他地域人教育を推進するために必要な支援を行います。
- (2) 松本大学は、飯田 OIDE 長姫高校の実施する、会議に参加します。

6 飯田市の役割

- (1) 飯田市は、授業計画づくりにむけたアドバイス、講師の派遣及び給付、公共施設及び機材等の貸出、その他地域人教育を推進するために必要な支援を行います。
- (2) 飯田市は、飯田 OIDE 長姫高校の実施する、会議に参加します。

7 その他

本協定に定めのない事項で、今後本協定を遂行する上で必要と認められる事項、また、疑義を生じた事項については、飯田 OIDE 長姫高校、松本大学及び飯田市の間で協議して、定めるものとします。

平成 25 年 4 月 26 日

飯田市 鼎名古熊 2535 番地 2
長野県飯田 OIDE 長姫高等学校

校長

松本市 新村 2095 番地 1
学校法人松商学園松本大学

学長

飯田市 大久保町 2534 番地
飯田市

飯田市長

経済産業省2006年提唱「社会人基礎力」の12の能力から、地域人教育推進委員会において特に地域人教育で育成したい能力を5つに絞り込み、毎年学習前と学習後の調査を実施している。

社会人基礎力の自己診断シート			年 組 番 氏名		
★今の自分にはどの程度社会人基礎力があるだろうか？					
分類	能力要素	内 容		評価	自己評価
Ⅰ 前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	物事に進んで取り込む力 例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り込む。	いつでも、積極的に取り込むことができる。	5	
			積極的に取り込むことが、ややできる。	4	
			内容によって、取り込むことができる	3	
			指示があれば、取り込むことができる。	2	
			なかなか、取り込むことができない。	1	
	② 実行力	目的を設定し確実に行動する力 例) 言われたことをやるだけではなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り込む。	いつでも、自ら目標を設定し、確実にやりとげることができる。	5	
			自ら目標を設定し、がんばってやりとげることができる。	4	
			内容によっては、やりとげることができる。	3	
			言われたことを、目標を設定して行動することができる。	2	
			言われたことを、目標を設定して行動することができない。	1	
Ⅱ 考え抜く力 (シンキング)	③ 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 例) 目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。	いつでも、現状を分析し目的や課題を明らかにして明確に提案できる。	5	
			現状を分析し、目的や課題を明らかにして提案できる。	4	
			内容によっては、現状を分析し目的や課題を明らかにして提案できる。	3	
			現状を分析し、目的や課題を明らかに出来るが、提案までできない。	2	
			現状を分析、提案ができない。	1	
	④ 創造力	新しい価値を生み出す力 例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。	創造力がある	5	
			課題に対して、新しい解決方法を考えることができる	4	
			内容によっては、新しい解決法を考えることができる。	3	
			誰かと相談しながら、新しい解決法を考えることができる。	2	
			新しい解決方法を考えるのは、苦手。	1	
Ⅲ チームワークで働く力	⑤ 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 例) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。	いつでも、自分の意見を相手に理解してもらい的確に伝えることができる。	5	
			自分の意見を相手に理解してもらい伝えることができる。	4	
			内容によっては、自分の意見を相手に理解して伝えることができる。	3	
			自分の意見を相手に理解してもらえたか、確認しながら伝えることができる。	2	
			自分の意見を相手に理解して伝えることができない。	1	
				合計	

経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」委員会中間報告より NPO法人「OCP総合研究所」が抜粋

社会人基礎力による能力要素<レーダーチャート>

★自己評価した点数を記入し、5角形になるように線でむすんでみよう！ さて、どんな5角形になったかな？どの力が足りないだろうか？

★ 次回の授業で自己分析をしてみよう！

自己診断日

平成____年____月____日

社会人基礎力の能力要素

①主体性

②<アクション>

②実行力

③課題発見力

④創造力

⑤(チームワーク)

⑤発信力

地域人教育の取り組み

1 年生 地域人教育報告

＜松本フィールドスタディ＞ 6月実施

松本市上土地区をグループで歩き、街の様子を見ながら、街頭インタビューをおこない、「街の宝物」と「街の困ったモノ・事」を見つけました。その「街の困ったモノ・事」を解決するために、「街の宝物」を活用する企画をグループごとで検討しました。模造紙に付箋を貼る、模造紙に記入することをおこない、その後発表をしました。

＜税に関する作文応募＞ 夏休みの課題

＜飯田フィールドスタディ＞ 10月実施

飯田市の「丘の上」と呼ばれている地域の中の「東野」「橋北」「橋南」地区で、松本フィールドスタディのように実施しました。1日目はフィールドワークや街頭インタビューをおこない、2日目は学校でまとめ・企画・発表をしました。

発表は、松本フィールドスタディでは模造紙を使ってでしたが、プレゼンテーションソフトを使っておこないました。

公民館の主事さんに各グループに同行していただき、困った事があればすぐに対処していただけた。また2日目のまとめ・企画・発表時にもアドバイスをいただき、大変助けていただいた。

＜財政教育プログラム＞ 12月実施

関東財務局の方が講師をつとめ、財政のガイダンス、自分達が考える歳出企画の立案と発表をおこないました。

【フィールドスタディの生徒の感想】

- ・松本フィールドワークの時は、店舗に入ることも、自分が気になった事を聞くことも少しためらって、いい話しが聞けなかったし、「なるほどな」といった事が少なく終わってしまいました。でも、飯田フィールドワークでは思ったらずくに聞けて、一軒一軒いいお話しが聞けて楽しかった。
- ・飯田フィールドワークでは主事さんが一緒について回ってくれたので、範囲内できちんと回れ、主事さんとも仲良く楽しくできて、すごく良いフィールドワークだった。
- ・「働く場所は関係ない。働く気持ちがあれば、どこでもできる。」という言葉が印象的でした。
- ・丘の上の知らない良さや課題がたくさんあって、驚いた。「こんなお店があること」、「歩かないと分からないこと」や「実際目で見ないと発見できないこと」がたくさんあり、話しを聞いて確かめることができた。
- ・松本フィールドワークより、自分の意見を同じグループの人に伝える事ができ、話し合いに意欲てきに参加できた。
- ・フィールドワークやインタビューなどのまとめ、課題解決の企画の立案、発表準備全般で、もっと時間的に余裕がほしかった。発表もあわただしく、他のグループのおもしろい企画を落ち着いて聞くことができなかった。
- ・来年度の地域人教育にも積極的に参加するようにしたい。少しでも地域の方々の役に立てるように私たちだからできることを考えていけるようにしたいです。

フォトコンテスト in 丘の町

【研究メンバー】 1年F組 鎮西光里 富永莉奈 林希美佳 平松奈和 松原舞雪 西川純夕

概要

丘の町のお店で働いている人を中心に
丘の町の良さ・課題について調査

- ① 私たちは、飯田の中心市街地のお店で働いている人を中心に丘の町の良さや課題を調査しました。

聞き込みを行った場所

片桐屋、かぐや、メガネマルヤ、人形の長野屋、長野屋玩具店、あわや乾物、むさしや青果店、嶋田屋麴店、くしはら茶店、かつや呉服店、精琴堂楽器店、キング堂、一二三屋まん十店、タイホーパン、丸山食品、木下クリーニング店、CREEKS、トキワ劇場、タケウチ酒店

- ② 片桐屋、かぐや、長野屋、精琴堂楽器店、タイホーパン、一二三屋まん十店などの店をまわり、多くの方に聞き込みを行うことができました。

丘の上の良さ

暮らし

- ・移動がしやすい
 - ・保育園が多い
 - ・病院に歩いて行ける
 - ・災害が少ない
- 生活がしやすい

観光・町並み

- ・リンゴ並木
- ・フェスティバル・お祭
- ・和菓子
- ・イベントがしやすい(碁盤の目)

- ③ 良さとして、暮らしの面では、移動がしやすい、保育園が多い、災害が少なく暮らしやすい。

観光・街並みの面では、りんご並木、和菓子、フェスティバルやお祭が多い、街が碁盤の目状になっておりイベントがしやすいなどが出されました。

丘の上の課題

暮らし

- ・住んでいる人が少ない
- ・昼間の町が静か
- ・コンビニや大型店がない
- ・若者が少ない

観光・街並み

- ・昼間空いている店が少ない
- ・無料の駐車場が少なく、
- ・店から遠い
- ・目玉となる魅力がない

- ④ 課題として暮らしの面では、昼間の街が静か、コンビニや大型店がない、住人や若者が少ない。

観光・街並みでは、昼間開いている店が少ない、無料の駐車場が少なく、店から遠いなどが出されました。

着目した点 良さ 移動がしやすい・イベントがしやすい 課題 町を歩いている人(若者)が少ない・昼間の町が静か	⑤ そこで私たちは、街を歩いている人(特に若者)が少ないという課題に着目し、移動がしやすくイベントがしやすいという良さを活かした企画を考えました。
フォトコンテスト in 丘の町	⑥ それがこちら！！ フォトコンテスト in 丘の町！！！！ です。
フォトコンテストin丘の町 ・ターゲット・・・中高生、若者 ・場所・・・丘の上にあるお店 ・詳細・・・SNSを利用しフォトコンテストを行う イベント中、高校生カフェもオープン ・期待される効果・・・街を歩く人(若者)が増える お店の宣伝になり、知ってもらうきっかけとなる	⑦ この企画は中高生・若者をターゲットとし、丘の街にあるお店に協力していただいて、SNSを活用したフォトコンテストを開催するというものです。方法としてツイッターやInstagramなどのSNSで『#』をつけて投稿してもらい、投稿された写真でコンテストを行います。 フォトコンテスト期間中、高校生カフェも同時開催したらより盛り上げるのではないかと考えました。
企画の実現に向け ・協力してもらう店舗へのお願い ・ポスターやSNSでの宣伝 ・フォトコンテスト用のアカウント作成 ・高校生カフェの場所取り・メニュー決め ・日程決め	⑧ この企画を行うことで期待される効果は、お店の宣伝になり知ってもらうきっかけとなる、SNSを使うことで若者の興味をひくことができる、丘の街を訪れる人が増える、昼間の街中を歩く人(特に若者)が増えるなどです。 この企画の実現に向けて、協力してもらう店舗へのお願い、ポスターやSNSでの宣伝、フォトコンテスト用のアカウント作成、高校生カフェの場所取り・メニュー決めなどを行う必要があります。

学んだこと ・ 地域の方が地域を大切に考えていることを再認識できた ・ 若年層がとて重視されていることが分かった ・ 店が続いていくように各店が工夫を凝らしていることが分かった ・ まだまだ知らない良いところがあった ・ 暮らしていて不便を感じている人が思った以上に多かった	⑨ 丘の街の方々の聞き込みを行い、若年層がとて重視されていること、お店が続いていくように各店が工夫を凝らしていること、まだまだ知らない良いところがあることなどを知ることができました。 そして、地域の方が地域のことを大切に考えていることがわかりました。
---	---

丘の上改革	
【研究メンバー】 1年G組 澁谷花穂菜 北原みちる 木下未悠 桐生瑞希 龍口瑠菜 吉川彩希	

調査の概要 ・ 飯田動物園の飼育員さんに話を伺った。 ・ 丘の上でお店を営んでいる人、生活している人に話を伺った。 ・ 飯田の町並みを実際に歩いた。 ・ 赤飯まんじゅうなどの和菓子をたべた。	① 丘の上でインタビューをして情報を集めました。インタビューをしてみると、様々な想いを聞くことができました。 動物園の飼育員さんに「どんな想いを抱って働いているか」とお話を伺うと、「動物と関わることで、環境問題と人との関わりについて知ってほしい、考えてほしい」という想いを抱いて働いているということが分かりました。
◎発見・課題 ☆発見 ・ 想いを抱いている人がいる ・ 仲間のつながりがある ★課題 ・ お互いの意見を共有したい ・ つながりはあるが生かしていない 目指す方向が分からない！！	② また、近所でのつながりがあり、仲が良い。 その反面、ゆるいつながりで、お互いの想いまでは話すことがない、ということも分かりました。 このように、実際に聞いてみると、お互いに想っていることを知ることはできません。
◎地域課題 ・ 想いをもっている人がいるのにそれを伝えたり、話したりする場がない。 ・ 横のつながりがあるのに緩い ・ それぞれのイベントが個々になりすぎている	③ 私たちは、それぞれが想っていることをお互いに知ってほしいと考えました。 そこで、それぞれが想っていること。それぞれの考える課題を明らかにする為、お互いに想いを話すことのできる場をつくるという企画を考えました。

お互いの想いを気軽に話せる場を作ろう！ ☆ターゲット 丘の上に住むすべての人 ☆コンセプト 地区・年齢・職種関係なくみんなが気軽にお互いの想いを話して聞いて理解できる場 ⇒ イベントを開催するなかでお互いに想いを交えることができるような場をつくる ☆詳細 ・誰でも気軽に集まることのできる場 ⇒ 会議や話し合いのように堅苦しい雰囲気とは違って遠慮せず気軽に意見が言えるようにするため ・丘の上すべての人 ⇒ 年齢・職種・地区関係なく話し合うことで様々な意見があつまる。 ×計画を決める場 ○想いを話す、知る、理解する場	④ そこで私たちは“お互いの想いを気軽に話せる場”が必要だと考えました。 ターゲットは丘の上に住む“全ての人”です。 コンセプトは地区、年齢、職種は関係なく、皆が気軽にお互いの想いを話して聞いて理解できる場です。 誰でも気軽に集まることができる場、それは会議や話し合いのように堅苦しい雰囲気ではなく、皆が気軽に意見が言える場です。 丘の上すべての人、つまり地区、年齢、職種に関係なく集まることによって様々な意見が集まります。
★具体例 ・年齢関係なく飯田の特産物を生かしたものづくり体験などのイベントを開催する ⇒ 赤飯まんじゅう 消しゴムはんこづくり体験など	⑤ 具体的なイベントの例として、年齢に関係なく飯田の特産物を活かした「ものづくり」体験を取り入れたイベントの実施を考えました。 赤飯饅頭やはんこ作りなど、若い年齢の人たちにも昔からある丘の上の魅力を、交流しながら体験することで知ってもらえることができると考えました。 インタビューをして分かった、若いお客さんが減ってきているという課題の解決にもつながると考えます。
☆期待される効果 お互いの意見を共有して賛成や反対意見を理解することで地域活性化への具体的なテーマ（方針）を形にすることができる。 ☆コスト面・工夫できること 人が集まるイベントと一緒に話し合う場をつくることでより多くの人を集めることができます。	⑥ 期待される効果は、お互いの意見を共有して賛成や反対意見を理解することで、地域活性化への具体的なテーマや方針を形にすることができます。 コスト面、工夫できることは、人が集まるイベントと一緒に話し合う場を作ることにより多くの人を集めることができます。
◎調査・分析・企画から学んだこと ・丘の上に住んでいる人は様々な想いをもっていることが分かった ・想いをお互いに理解できていないから共有する必要があると思った	⑦ 繰り返しになりますが、計画を決める場ではなく、想いを話すことができ、知ることでもできそして、理解できる場にしたいです。 それぞれが、いろいろな想いを持っていることがわかり、それを集約することができれば素晴らしいと思います。

【2 学年】地域人教育活動報告

～1 年間の取り組み～



【報告者】

2 年 F 組 宮毛涼花

岩崎芹奈

宮下 琴

2 年 G 組 安藤 葵

南坂 悠美

羽場 夏希



1. 本年度の学習目標

本年度2年生の地域人教育では、「地域で活動する」というテーマで、飯田市内（丘の上の街）で開催されるりんご並木イベントへの参加を中心に様々な活動に取り組んできました。

2. 活動の概要

（1）りんご並木イベントへの参加

①ぽおの日曜日（4／28 20名参加）

事前学習（講演） 西さん 北原さん

②竹宵祭（5／25 15名参加）

事前学習（講演） 三石さん

③華齢なる音楽祭（9／15 11名参加）

事前学習（講演） 桑原さん

④りんご並木天国（10／20 31名参加）

事前学習（講演） 明治大学・学生

⑤丘のまちフェスタ（11／3 19名参加）

（2）インターンシップ

2年生全員が地元の企業や官公庁などで職業体験を行いました。事前の就業場所との打ち合わせ、自分の紹介、当日の仕事や作業の反省・翌日の指示等、しっかりと事前学習を行いました。また、修了後には自己評価等を終え、「インターンシップ報告会」を行いました。「中学生の時も職業体験は行ったが、さらに一步踏み込んで自ら先を見て行動するという点に気を配り、仕事をするのができいい勉強になった」という感想が多くありました。

（3）キャリア学習（大学見学・大須フィールドワーク）

アクティブラーニング（大学での模擬授業）および大須商店街フィールドワーク

キャリア学習の日に合わせて行った取り組みでは、午前中に名古屋商科大学で大学の先生によるアクティブラーニングの模擬授業をうけ、学内見学を行いました。午後はかつてシ

ャッター街だった町から再生し、更なる発展を遂げたまれな商店街として有名な名古屋市大須商店街でフィールドワークを行いました。飯田市のまちづくりにも参考になることが多く、とても充実したフィールドワークになりました。

(4) 探究学習

夏季課題（「日本地図」からテーマを選びポスターセッション）

研究作文コンクール（産業教育振興会）

最優秀賞 北澤 真緒 佳作 橋本 星

(5) 全国生徒商業研究発表大会見学

事前学習として、全商のHPから発表校の発表内容についてダウンロードしたものを読み、グループワークの中で、各自が各県の発表内容をまとめグループ内で発表を行い、本番に臨みました。発表内容はもちろんですが、とても緊張した雰囲気の中、発表者はスライド等を使いとてもテンポよく、聞きやすい語り口調で話を進め、提示される資料や内容もとても興味深く、アッという間に時間が流れました。

事後学習では聞いてきた発表についてまとめを行い、自分たちが選ぶ最優秀賞、優秀賞等を考え、相互発表を行いまとめをしました。発表の内容をや方法も含め、全国レベルのものを見学できたことは、今後の地域人教育の活動の中で参考になることが多くあり、とても意味のあるものでした。

(6) 高校生向けセミナー

3. 並木イベントへの参加

4月28日 「ぽおの日曜日」

私たちが行った活動はゆるキャラになり、お客さんとふれあうことと、焼き鳥、綿あめ、射的の手伝いです。実際に活動してみて、



ゆるキャラを体験した人は、

- ・暑くて大変だったが、いろんな人の笑顔を見ることができてよかった。
- ・中に入っている人の気持ちがわかる貴重な体験が

できた。という感想でした。

次に屋台を運営した人は、

- ・小さい子はテーブルに届かない子がいたので、踏み台などがあればいいと思った。
- ・わたがしを子供が嬉しそうに買っていつてくれて良かった。

・多くの人にやきとりを買ってもらえるように声がけができた。などです。

全体の感想としては、

- ・大変だったが、やりがいを感じた。
- ・運営側の仕事でも十分にイベントを楽しむことができた。という感想が多かったです。
- ・私自身、普段は体験することができない運営側の仕事をする事ができて貴重な体験にもなり、とてもこのイベントを楽しむことができました。

5月25日 「竹宵まつり」

この竹宵まつりとは、「町の電気を消してスローな夜を。町中の電気を消しキャンドルを灯そう。明りの向こうにきっと何かが見えるはず。地球のこと、家族のこと、考えてみませんか？」というコンセプトで行われているイベントです。



実際の活動内容は

- ・蜜蝋キャンドルワークショップのスタッフ
- ・本部にてパンフレット配り
- ・竹灯籠の設置、点灯 を行いました。

このイベントに参加しての感想

(良かった点)

- ・あまりなじみのないイベントでしたが、ガイダンスを聞き興味を持って参加しました。
- ・竹灯籠に明かりがともった姿がとてもきれいでした。
- ・ながのシードルの販売を行ったり、電気を消したりして楽しむイベントだったので、子供の参加者は少ないと思っていました。しかし、子供向けのワークショップがあるなどしてみんなが楽しめるイベントで驚きました。

(改善点)

- ・せっかく地球のことや家族のことを考えられるイベントなのだから、もっとイベントのコンセプトを強調したほうがいいと思いました。
- ・ベンチを増やしたほうがいいと思いました。

9月15日 「華齢なる音楽祭」

華齢なる音楽祭とは、最も華のある年齢の音楽愛好家たちによる「いい年をして…」ではなく「いい年だからこそ！」のこの円熟・華齢なる音楽パワーをみんなで楽しみたいということコンセプトに作られたユニークな音楽祭です。参加資格は、60歳以上であることです。ひとりひとりがただの発表会にせず音楽祭に責任を持っています。



2、活動内容

- ・駐車場の整備
- ・舞台の準備・発表者の手伝い
- ・受け付け

3、感想

駐車場整備では、車が渋滞しないようにどの車を先に行かせてどの車に待ってもらうか考える時間もなくてとても難しく大変でした。

音楽祭は、ひとりひとりが責任をもっていることもありとても迫力が驚きました。

4、学んだこと

- ・お年寄りの方との交流の大切さ
- ・音楽は世代を超えて愛されている
- ・お年寄りの方々の積極性とバイタリティ（まだまだ現役世代には負けていない）

10月20日 「りんご並木天国」

私はりんご並木天国に射的屋として参加しました。

前回の課題点だった、小さい子が届く踏み台はコンテナで補うことでテーブルへの高さを補い、順番待ちをしている子からあらかじめお金を貰い、射的の弾を渡し、混雑の緩和を図りました。今回は小さい子でも当たるように配置を簡単にしました。

景品が偏らないようにバランスよく並べるのが難しかったです。

その他にも今回は大学生が主催する「裏界線」のサポート等を行いました。

今回参加して感じたことは子供の視線は想像よりもずっと低く、しゃがんで初めて気付くことができました。

二年生の授業の一環で参加したけれどまた個人的に参加してみたいと思いました。



11月3日 「丘のまちフェスタ」

このイベントは、サブカルチャーをメインとし、全国のアニメファン・コスプレイヤー、子供たち、グルメファン、クルマ愛好家をターゲットとしたイベントです。当日は、信州痛車連合や、何体ものドールたちも展示を行っていました。



2、活動内容

- ・プラレール・ミニ四駆のスタッフ
- ・じゃんけんラリーのスタッフ
- ・恐竜塗装のスタッフ

3、感想

(良かった点)

- ・普段人通りの少ない丘の町に、歩くのが大変なほど人が集まっていて驚きました。
- ・イベントのない日もこれくらい人が集まってくれたらいいのにな、と思いました。

(改善点)

- ・子供を預けさせていただいたが、何かあった時に親がだれかわからず、すぐに伝えることができませんでした。
- ・アイデアで貸し出しているワゴンを片付けるのが重くて大変でした。
- ・BGMをかけるとよりいい雰囲気になると思いました。
- ・ごみが落ちていて片付けるとき大変でした。ごみ箱を設置したほうが良いと思いました。せっかく楽しいイベントなのだから、最後まで楽しい気持ちで終わりたいです。
- ・プラレールの数が少なく、取り合いになっていたのがプラレールの数を増やしたほうが良いと思いました。
- ・思っていたよりも女の子たちもプラレールやミニ四駆に参加していました。しかし、参加せずに親と一緒に見ている子もいたので、女の子も楽しめるブースもあったらより多くの子供たちが集まると思いました。

4. まとめ

- ・「ぽおの日曜日」では、着ぐるみに入ったり屋台のお手伝いをして賑やかに過ごしました。
- ・「竹宵まつり」では、竹で作った灯籠に灯った灯りを見て、静かで落ち着いた時間を過ごしました。
→私たちは、楽しみ方にも様々な形があることを改めて知りました。
- ・「丘のまちフェスティバル」では小さな子どもたちと交流し、華齢なる音楽祭ではお年寄りの方々と交流しました。
→双方から、今の私たちにはない刺激を受け、様々な世代との関わりを持つことの大切さを知りました。
- ・「りんご並木天国」では、いつもは人が通らない裏界線をイベントで盛り上げたいと言う人たちが集まり、イベントを行いました。普段使わない裏界線を利用するという発想にとっても驚かされました。

私たちは今回の地域人教育で、地域の方々と交流し、人との関わりの大切さを学びました。自分の利益のためでなく、多くの人たちの笑顔のために働く姿を見て、私たちもこうありたいと思うようになりました。

来年度は今回学んだことを活かし、便利だけでなく、人に喜んでもらえる活動を積極的に行っていきたいと思いました。



学年	3	学科	商業科		生徒数	80	
今年度テーマ			交流を重視した地域連携学習 ～社会(地域)に対して当事者意識を発揮する～		<内容> ア 生徒が自ら考え、行動する力を養う イ 生徒の多様性を養う(ダイバーシティ Diversity) ⇒ 自身の世界を広げる ウ 生徒同士や地域住民、職業人と協働しながら社会人基礎力を高める エ 論理的に思考できる力や他者に説明できる力を高める オ 地域における社会課題の認識とその解決に向けた実践的な活動を活発に行う カ 地域人教育をPDCAサイクルに乗せた取組とする ⇒ 研究活動とする キ 生徒が将来、飯田下伊那地域で活躍できるように指導することを共通の理念とする		
学期	回	月	日	時限	学習項目	内 容	
1	①	4	12	4	課題研究ガイダンス	学ぶ姿勢づくり(身だしなみ、ファイル、筆記用具持参、日誌の扱い、 考査・レポート・評価についてなど)	
				5	地域人教育 概要	紹介(職員、市、松大)	
				6		公民館主事による(プレゼン地域の説明と高校生に求めること)	
	19		4	危機管理と安全への取り組み(講義)	(高橋t)		
			5	協働する基礎をつくる	社会人基礎力の説明・市長講演事前学習の説明(宿題) ⇒ 講座ごとの会場へ移動		
			6	地域住民の課題とニーズを把握する①	公民館主事との顔合わせ、地域で実践したいことの洗い出し、取組むテーマの仮決定		
	③	26	4	事前学習⇒市長講演(13:00～14:30)	「ニッポンの日本」をデザインする南信州・飯田の戦略的地域づくり(仮) 飯田市 牧野市長		
			5		終了後レポートの指示 ⇒ 講座ごとへの会場へ移動		
			6	地域住民の課題とニーズを把握する②	フィールドスタディ その1		
	④	5	7	4	ビジネスにより地域課題の解決を図る	講演 「(松本大学 教授)」 ⇒ 終了後、各講座の会場へ移動	
				5	飯田市における社会課題を学ぶ	次回フィールドスタディに向けた準備	
				6		飯田市の課題・魅力の洗い出し(グループワーク)	
	⑤		24	4	地域住民の課題とニーズを把握する③	フィールドスタディ その2	
				5			
				6			
	⑥	31	4	地域住民の課題とニーズを把握する④	フィールドスタディ その3 ⇒ 調査 アンケート		
			5				
			6				
	⑦	14	4	実践例に学ぶ その1	講義 その1(地域人教育に関わりのある方)(学校主催)		
			5	1学期期末考査の説明	グループごと説明 ⇒ 終了後、各講座の会場へ移動		
			6	取組む(地域)課題のテーマの決定①	調査に対する振り返り、検証、仮説の設定 その1		
	考査	6	1 学 期 期 末 考 査 (授業時間内にて実施)				
	⑧	28	4	取組む(地域)課題のテーマの決定②	フィールドスタディ その4 ⇒ 調査に対する振り返り 検証、仮説の設定 その2		
			5	1学期期末考査 答案返却	グループごと返却		
			6				
2	⑨	5	4	効果的なプレゼンテーション技法①	名プレゼンターになろう①(高橋T)		
			5	夏休みの研究について	テーマに設定した課題に関する研究調査の宿題提示 ⇒ 終了後、各講座の会場へ移動		
			6	(地域)課題の解決に向け行動する②	テーマに沿った研究、実践活動②		
	⑩	19	1	ビジネスにより地域課題の解決を図る	テーマに設定した課題に対しての仮説、課題解決の提案 (白戸t:各グループを巡っていただき懇談)(松本大学 教授) ⇒ 終了後、各講座の会場へ移動		
			2				
			3	(地域)課題の解決に向け行動する①	テーマに沿った研究、実践活動①		
夏季休業中の研究調査および実践活動							
	⑪	8	30	4	地域課題について考え、表現する	夏季休業課題に関するポスターセッション	
				5	(中間発表を兼ねる:講座混合グループ 10グループにて実施)		
				6	同級生から学ぶ	グループワーク「ポスターセッションから学んだこと、地域の課題と自分の課題」	
	⑫	6	4	(地域)課題の解決に向け行動する③	テーマに沿った研究、実践活動③		
			5				
			6				
	⑬	9	13	4	実践例に学ぶ その2	講義 その2 (公民館主催) ⇒ 終了後、各講座の会場へ移動	
				5	(地域)課題の解決に向け行動する④	テーマに沿った研究、実践活動④	
				6			
	⑭	20	4	効果的なプレゼンテーション技法②	名プレゼンターになろう② (高橋t) ⇒ 終了後、各講座の会場へ移動		
			5	(地域)課題の解決に向け行動する⑤	テーマに沿った研究、実践活動⑤		
			6				

青字:学校側主催の講義および全体活動
 赤字:外部講師による講義
 黒字:グループ活動

2	⑮	4	4	効果的なプレゼンテーション技法③	名プレゼンターになろう③（高橋t）⇒ 終了後、各講座の会場へ移動	
			5			
			6	(地域)課題の解決に向け行動する⑥	テーマに沿った研究、実践活動⑥	
			4			
			5	(地域)課題の解決に向け行動する⑦	テーマに沿った研究、実践活動⑦	
			6			
	⑯	10	18	4		
				5	(地域)課題の解決に向け行動する⑦	テーマに沿った研究、実践活動⑦
				6		
	⑰	25	25	4		
				5	(地域)課題の解決に向け行動する⑧	テーマに沿った研究、実践活動⑧
				6		
3	⑱	11	1	4		
				5	(地域)課題の解決に向け行動する⑨	テーマに沿った研究、実践活動⑨
				6		
	⑲	8	8	4	効果的なプレゼンテーション技法④	名プレゼンターになろう④（高橋t）⇒ 終了後、各講座の会場へ移動…講座ごと答案の返却
				5	(地域)課題の解決に向け行動する⑩	テーマに沿った研究、実践活動⑩
				6		
	⑳	15	15	4		
				5	(地域)課題の解決に向け行動する⑩	テーマに沿った研究、実践活動⑩
				6		
	㉑	22	22	4	(全国生徒商業研究発表大会 見学 in 埼玉県（予定）)	
				5		
				6		
2 学 期 期 末 考 査（授業時間内にて実施）						
レポ ー ト 提 出：提出期限 17:00厳守 >						
3	㉒	29	4	効果的なプレゼンテーション技法④	名プレゼンターになろう④（高橋t）⇒ 終了後、各講座の会場へ移動…講座ごと答案の返却	
			5	(地域)課題の解決に向け行動する⑪	テーマに沿った研究、実践活動⑪	
			6			
	㉓	6	6	4	活動のふりかえり、検証をする①	地域人教育成果発表会準備・報告書作成
				5		
				6		
	㉔	13	13	4	活動のふりかえり、検証をする②	地域人教育成果発表会準備・報告書作成
				5		
				6		
	㉕	12	20	1	活動のふりかえり、検証をする③	地域人教育成果発表会準備・報告書作成
				2		
				3		
	23 (月)	23	1	am授業／pm準備・リハーサル		
			2			
			3			
㉖	26	26	1	地域人教育成果発表会の振り返り	地域人教育成果発表会の振り返り	
			2	活動のふりかえり、検証をする④	全校課題研究発表会準備・報告書作成	
			3			
㉗	10	10	4	地域人教育成果発表会の振り返り	地域人教育成果発表会の振り返り	
			5	活動のふりかえり、検証をする⑤	全校課題研究発表会準備・報告書作成	
			6			
㉘	1	17	4	全校 課題研究発表会		
			5			
			6			
㉙	24	24	4	年間総括 成果と課題の洗い出し	年間総括 成果と課題の洗い出し	
			5			
			6			

○ I D E よ！みんなの丘（橋北地区）



【研究メンバー】

大牧功達 岡田知希 小林博明
木下彩 熊谷朱夏 熊谷夏弥乃
斎藤結愛 中原聖美
山田将晶（指導教員）木下和子（橋北公民館主事）

【ご協力いただいた方々】

KURANO 様 丸山公民館 様
東野公民館 様 今年の橋北地区担当の先輩方

1. はじめに

私たちは活動当初、橋北地区についてほとんど知らなかったものの、フィールドワークを行ったり夏祭りに参加したりする中で、橋北地区のことを知っていった。活動を進めていく中で、地域に対する熱い思いを持っている人がいることや買い物に困っている人、空き家が多いことなどを知った。その中で自分たちにできることは何かを考え、「高齢者と若者の交流」をテーマに取り組んだ。

2. 研究課題

高齢者と高校生を対象にアンケート調査を実施した。その結果、高齢者は「若者と交流する場があれば行きたい」、「近所の人と話す機会が少ない」こと、高校生は「交流の場に行きたいと思わない」という回答が多かった一方で「高齢者と触れ合うことは大切」と考えていることがわかった。そこで高齢者と若者の交流の場を設け、タピオカドリンクを配ることによって若者を引き付け、みんなで楽しく交流できると考えた。

3. 研究経過

- 5月 フィールドワーク
- 7月 夏祭り参加
- 9月 アンケート調査実施
- 10月 高校生スーパー参加
- 11月 タピオカドリンク無料配布
- 12月 「○ I D E よ！みんなの丘」開催



4. 研究内容

○タピオカドリンク無料配布

昨年の先輩方が行っている高校生スーパーの場でタピオカドリンクを無料配布した。手伝いにいったときに高校生スーパーには多くの高齢者が来ていることを知ったのでその場を借りて行うことにした。先輩方にこの話をしたときには快く承諾してくださった。来てくださった方たちに楽しく交流してもらえるようトランプや百人一首をした。しかし、スーパーに買い物に来ているお客さんに声をかけられず多くの方との交流をすることはでき

なかった。その反省をもとに次は自分たちで交流の場をつくろうと決定した。

○「OIDEよ！みんなの丘」開催

橋北の公民館の一階をお借りして開催した。前回の反省をもとに、高齢者と若者で交流しやすい囲碁ボールを中心に遊びを考えた。前回交流の場に来てくださった方が多く来てくださりつながりの大切さを感じた。タピオカの無料配布も行い若干だが若者も来てくださった。しかし、高齢者と若者で交流ができるように動くことができなかった。もっとSNSを使い宣伝するべきだったという反省も残った。多くの人が来てくださりみんなが楽しいと言ってくれたのでやってよかった。

5. 考察

アンケート結果により、高齢者は「交流の場を求めているということ」、若者は「高齢者と触れ合うことが大切だと思っていること」が分かった。しかし、若者は交流の場に自分の意志で行きたいとは思っていないということも分かった。そこで、流行のタピオカドリンクを使って交流の場をつくり、若者を呼び込めば両者の思いを同時に叶えることができるのではないかと考え活動をしてきた。その道中では販売することへの壁にぶつかることもあったが、私たちがしたいことをするために“無料配布”という形で行うことを決定した。二度の無料配布を行い来てくださった方たちに交流をしてもらった。来てくださった方たちには大変喜んでもらうことができた。しかし、本来の目的である高齢者と若者の交流を達成することはできなかった。その理由の一つとして宣伝不足があげられ、若者を呼ぶことはできなかった。

12月26日に橋北公民館で私たちが一年間活動してきたことを地域の方たちに報告した。その後に、皆で交流をした。そこには今までの活動よりもののびと交流している私たち高校生がいた。私たちは高齢者と若者の交流を目的に活動し、それを達成することはできなかったと思っていたが、その時私たちのやりたいことは達成されていたのだ。嬉しそうに高校生を見ている高齢者の方たち、楽しそうに高齢者と交流をしている高校生、それは私たちが目指していた景色だった。後は、この景色に橋北に住む若者やもっと多くの人に加わってほしい。

6. 今後の課題

考察の最後でも触れているが、どのようにして橋北に住む若者を地域に呼び込めばよいかということだ。今後はさらに少子高齢化が進んでいく中で、地域の若者たちがどれだけ地域に関わっていけるかが鍵になってくと思う。そのために、飯田を出る前に地域と多く触れ合い帰ってくる場所を作ることが大切だと思う。

7. 終わりに

私たちの課題研究は、橋北がどんな地域か、どんな人が住んでいるかわからず不安から始まった。そんな私たちが地域と触れ合っているうちに、地域の魅力と地域の方の温かさを感じ、不安がなくなった。私たちが楽しく活動し、地域の方たちとのつながりを深めながら、橋北の活性化の第一歩になれば私たちの活動に意味があったと思う。

一年間私たちの活動に協力していただいた地域の方、主事さん、先生ありがとうございました。



・橋北地区フィールドワーク 4月



・橋北夏祭り 7月



・企画の話し合い 9月



・高校生スーパー&タピオカ 11月

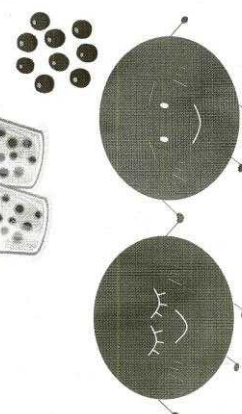


・交流&タピオカ 12月

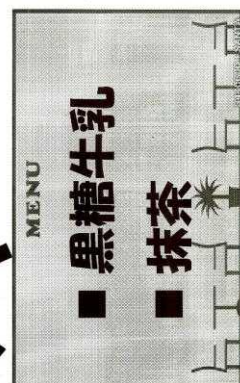




高校生タピオカ
館ドミナック



12/8(日)
10:00~13:00



★まだある！橋北の魅力★



KURANO さんの
ラテアート

吉丸屋さんの
みたらし団子🍡



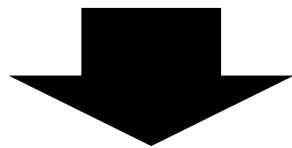
有形文化財の
旧飯田測候所

橋北グループの活動概略図

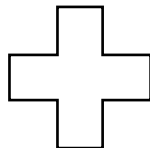
【橋北の課題】

- ・ 人があまり歩いていない
- ・ 高齢化率が約40%
- ・ 若者との交流の機会が少ない など…

少子高齢化

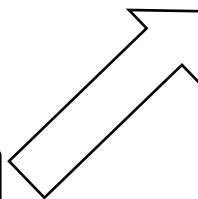
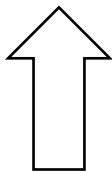


高齢者



若者

アンケート調査



呼び込む
ために

タピオカ

OIDEよ！
みんなの丘

頑張れ橋南！いいぞ橋南！！（橋南地区）

～僕らの橋南 room～



【研究メンバー】

石原 幸輝 宇井 義貴 熊谷 琴音
小池 那央花 所澤 真優 須山 千紘
林 耀士 米山 もえ
越 康恵（指導教員）熊谷 祐希（橋南公民館主事）

【ご協力いただいた方々】

橋南まちづくり委員会 様
飯田市産業経済部 商業・市街地活性課 様
飯田コアカレッジ 様 飯田市立飯田東中学校 様
橋南地区商店街の皆様

1. はじめに

橋南地区について楽しく紹介してくれた主事さんの人柄に惹かれて、私たちはこの地区で楽しく活動していこう！と決めた。

しかし、この地区について詳しく知るメンバーは誰もおらず、まずは自分たちで街を歩いて感じたことや、出会った人たちから聞こえてきた声の中から課題を発見し、地域の方と一緒に解決することを目指して活動をスタートさせた。

2. 研究課題

橋南地区内、外へ魅力を発信することにより、大勢の方々に橋南に対する関心を高めてもらい、街に“活気”を取り戻すきっかけづくりをする。

そのために、将来的には地区の方へ引き継げるようなホームページを作成する。

3. 研究経過

5月 フィールドワーク	10月 取材活動 飯田コアカレッジにホームページ作成協力依頼
6月 グループ内で意見交換 SNSの話題登場	
7月 ホームページ作りに決定 まちづくり委員会へ参加し、協力依頼	11月 サーバ契約 ホームページ作成開始取材活動
8月 市政懇談会へ参加し、地域の方へ協力依頼	12月 ホームページ作成 取材活動
9月 ホームページの掲載内容決定 取材活動	1月 橋南地区へ引き継ぎ

4. 研究内容

（1）橋南地区を知る

意外と広くて色々な雰囲気を持った街並み。イベントの多い場所にもかかわらず、掲示されている地図が見づらい事やお店が多いわりには、歩いている人が少ない事がわかった。

また、若者のアイディアで街に活気を取り戻してほしいという住人の方の想いを知った。

（2）伝える

橋南地区のさまざまな魅力を地区内外へ伝え、多くの方々に関心を高めてもらえるようなホームページ作りを目指し、地域の方々へ一緒に作り上げていただけるようにまちづくり委員会、市政懇談会などで協力依頼。

(3) 発信準備・引継ぎ

ホームページに掲載するための取材活動。

飯田コアカレッジの学生さんにご指導いただきながらホームページ作り。

私たちの卒業後も、地域活性の手助けになるようなホームページとして地域の方に継続して利用してもらうように引き継ぐ。

5. 考察

始めにフィールドワークを行い私たちが率直に感じた意見を出し合った。その結果、幅広い年齢層が見てくれると考えたホームページ作成を行うことにした。しかし技術が足りなかったため、飯田コアカレッジの方々に協力をしていただいた。ホームページ作成にあたりイベント、歴史、飲食店のグループに分かれて取材をした。急な取材で地域の方を困らせてしまうこともあったが、地域の方々は優しく対応してくれた。

私たちの活動は8人のメンバーだけでなく、地域の方や主事の熊谷さん、コアカレッジの方々のおかげでここまで来ることができた。この経験を活かし地域に寄り添って生活していきたい。

6. 終わりに

私たちの活動は橋南地区に活気や経済効果をもたらすきっかけとなるようなホームページの土台を作り、地域に引き継ぐことである。私たちが作成したホームページはまだ情報量が少なく認知度も低いいため、今後地域の皆さんが一丸となってさらに情報量を増やし、このホームページを育ててもらい必要がある。そのため誰にどうやってホームページを引き継ぎ誰が運営していくのかを最後まで私たちと橋南地区の皆さんで話し合い、「橋南 room」が橋南地区にずっと残っていくようにしていきたい。

1年間の活動で何も知らなかった橋南地区を知り、地域の方の「やりたいけどできない」という思いに私たちに手助けできたのではないかな。普段の授業と違い、自分たちから外に出て楽しみながら地域に関わり学んだことが、私たちにとって大きな成長となった。1年間ご協力くださった皆さん、本当にありがとうございました。



橋南地区まちづくり委員会での話し合い



「僕らの橋南 room」トップページ

👉 ホームページのトップページ

<http://kyounan-room.sakura.ne.jp/site/>



ぜひ読みこんで見てみてください 😊



👉 林耀士

QR コード👉



橋南地区の広報誌👉

OIDE長姫高等学校
頑張れ橋南!
いざ橋南!
〜僕らの橋南room〜
私たちは、課題研究の授業の一環として橋南地区で活動をしています。研究をするにあたり、まず橋南を知るためにフィールドワークをしました。そこで私たちが気づいた課題は、「街にある地図の看



(I) 令和元年12月19日 橋 南 第 57 号

橋南
第 57 号
発行 橋南まちづくり委員会
橋南公民館
編集 広報部
印刷 株式会社 秀文社

人口：男 1,223名 女 1,435名 計 2,658名 世帯数 1,255世帯 (令和元年11月末現在)

板が見にくい」「日中に街を歩いている人が少ない」ということでした。また、街の方へのインタビューでは、「橋南に活気を取り戻したい」という思いがあることを知りました。そこで私たちは橋南の魅力や橋南の地図、お店の場所を高校生らしく情報発信できないかと考えました。するとその考えは住民の総意である橋南将来構想と合致していることがわかりました。そんな思いを受け、現在私たちは橋南の内だけでなく外にも街の魅力を伝えるために橋南のイベント、飲食店、歴史について発信するホームページを作成しています。いずれこの活動を橋南地区に引き継ぐことができるよう、最後まで精一杯活動していきます。

メンバーからひとこと！！！！

一年間、とても楽しい活動して、
で終わりを迎えたのは、みんなが
仲間を信頼し、支え合い、月1月1
回かけて「生命」いなければならぬと
思います。みんながみんな、
みんなが、みんなが、みんなが、
大きくなって、みんなが、
みんなが、みんなが、みんなが、

成果発表が済んだ後の反省会にて
「このグループが備えてきたと思うものは、
いくつかから最後までできた。」という言葉も聞いて
とても喜んでいます。
今後、それぞれ道は違うと思いますが、皆
さん8人が悩みながら50m1つ前に進み、活動
してきた事は、いかにと役に立つと思えます。
1年間、ご苦労様でした！
(7274イ)

橋南 room

たくさんの人に
HPを見てもらいたい
宇井義貴

いいホームロジカ
できてきたです。
林 耀士

リーダーとしては力不足なところ
もあったけどみんなを楽しく
できてよかったです。
99人の人にホームページを
見てもらいたい
石原 幸雄

大変なことも沢山ありまして、
このメンバーでいつも楽しく笑顔で
活動ができてとても良かったです。
橋本 room がさらに大きくなると
嬉しいです。
小池 那智

取材をしていく中で
自分の知らない事が
たくさん知れたので
よかったです。
楽しく活動できました。
米山さん

HPを作るのは初めて
で不安だったけれど、
無事いいホームページを作る
ことが出来てよかったです。 熊谷 琴音

楽しかった♡
— 嶺山 千紬 —

橋南 room を作れたし、
すばし楽しめたし、無事終え
れた良しです。
所澤真愛

5月フィールドワーク&取材活動



7、8月まちづくり委員会①&市政懇談会



10月まちづくり委員会②



11 月ホームページ作成



12 月商業科課題研究発表会



おまけ



心もお腹もいっぱい ～甘くて柔らかい柏原産野菜に恋をしたっ♡～ (東野地区)



【研究メンバー】

木下愛菜 菅沼望子 石田涼風 伊藤愛夜歌
太田奈歩 小沢香菜子 加藤優奈 古井遥名

植原崇裕（指導教員） 棚田美咲（東野公民館主事）

【ご協力いただいた方々】

さくらの会の皆様・文化部の皆様

松澤卓治様（公民館長）

大場孝様（まちづくり会会長）・南井規子様

間瀬戸章人様（第1部会）・井上基様（桜保存会会長）

1. はじめに

私たちは東野について何も知らなかったため、はじめにフィールドワークをした。そこでブランド野菜である“柏原産野菜”に出会い、あまり知れ渡っていないことに気が付いた。この野菜の存在を広めたいと考え、柏原産野菜を用いた商品（いももち）を開発し、販売・提供をおこなってきた。

2. 研究課題

ブランド野菜である“柏原産野菜”を広める！

3. 研究経過

4月 チーム結成

5月 フィールドワーク、柏原産野菜の発見

6月 柏原産野菜についての学習

7月 市場調査、課題発見

9月 ポスター制作①

じゃがいももちの試作

運動会へ参加、じゃがいももちの提供

11月 ポスター制作②

フリーマーケットへ参加、じゃがいももち・
さつまいももちの販売

12月 イルミネーション点灯式への参加、

じゃがいももち・さつまいももちの提供

4. 研究内容

(1) 柏原野菜についての学習

さくらの会の皆さんや農家の南井さんに出会い、柏原産野菜についての知識を深めた。

赤土で作った甘くて柔らかい野菜であることを知った。農家さんの柏原産野菜に対する思いを聞いた。

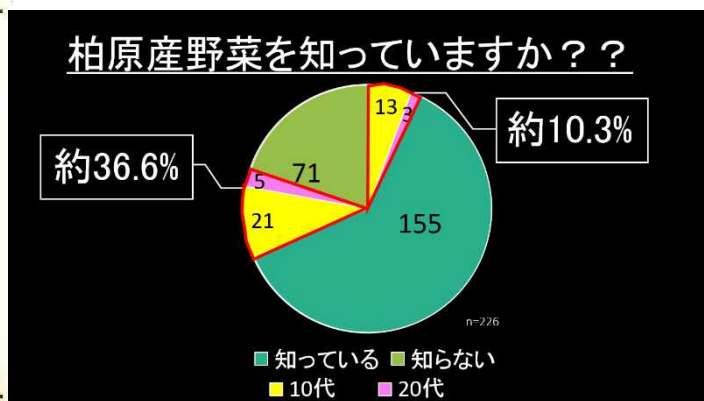
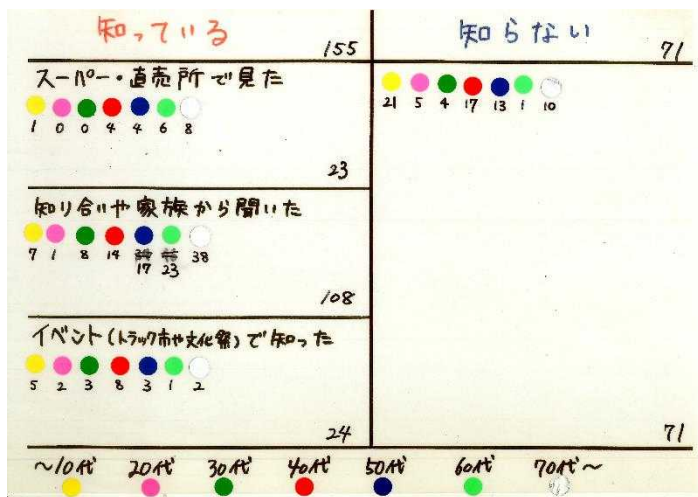
(2) いももちの商品開発・販売・提供

素材の魅力を生かし、手軽に真似してもらえる料理を開発した。野菜を多くの人に知ってもらうために、じゃがいももち、さつまいももちを開発し、東野区民運動会、大宮神社フリーマーケット、桜並木のイルミネーション点灯式で販売・提供をおこなった。

(3) イベントへの参加

人形劇フェスタ・寺子屋・大宮諏訪神社秋季祭典・東野区民文化祭に参加し、住民と交流を図った。

東野の皆さんはとても明るくて壁がなく、多くの交流ができた。



5. 考察

東野でフィールドワークを行った際に、農家さん達の「野菜を広めたい」、「子ども達に食育について学んでほしい」という思いを聞いた私たちは、商品開発によって柏原産野菜を広めたいと考えた。柏原産野菜の認知度が低いということを知り、「高校生が普及活動に取り組めば柏原産野菜のブランドを確立させることができるのではないか」と考え、甘くて柔らかいという良さを引き出せるじゃがいももちを開発した。イベントで販売や提供をしていくうちに地域の方から「ソウルフードにしてほしい」というお言葉をいただいた。じゃがいももちを通して柏原産野菜を広めることはできたが、市場調査ができず、ソウルフードにはならなかった。

一年間の活動により、地域の方と交流が深められ、私たちの活動に協力してくださる方が増えたように感じられた。はじめは、自分達のやりたいことを第一に考えていたが、最終的に地域のために何かをしようという気持ちに変わっていった。



6. 今後の課題

市場調査の結果、柏原産野菜を知っている若者が少なかった。さらに多くの人に広めるため、いももちの販売・提供活動を継続することで、若者世代の認知度を向上させたい。また、同時にいももちを東野のソウルフードにしていきたい。この2つの課題が地域の発展に繋がると考える。

これまで地域課題に真摯に向き合ってきた姿勢を忘れず、今後に生かしていきたいと思う。

7. 終わりに

私たちの活動は、1年間で解決するには難しい課題だった。東野地区について何も知らなかった私たちだったが、地域の方々と関わることで温かさや優しさを実感し、地域の一員となり活動できた。

1年間の活動を終え、東野には大宮諏訪神社や桜並木だけではなく、甘くて柔らかい柏原産野菜や温かい地域の方々がいることを忘れないようにしたいと思った。

一年間の活動



フィールドワーク



文化祭の様子



放水体験



方向性決め



試作



会議中



運動会の様子



フリーマーケットの様子



イルミネーションの様子



いももち

<材料>

- ・じゃがいも 中...3つ
- ・◎片栗粉...大さじ3
- ・◎塩コショウ...適量

- ・とろけるチーズ...2枚（1枚18g）
- ・◎マヨネーズ...大さじ3
- ・サラダ油...多め



(1) じゃがいもを1/4にカットし、柔らかくなるまで熱湯で茹でる（またはレンジで温める）。



(2) じゃがいもをボウルに移し潰す



(3) ◎の材料をすべて入れヘラで混ぜ合わせる。混ぜ終えてもベチャツとするようなら片栗粉を少しずつ足す。



(4) 手の平で丸め、チーズを包む。厚さが1cm弱程の丸を形成する。
(5) 油を多めに引き、中火でこんがりと焼く。両面が焼けたらお皿に盛りつける。

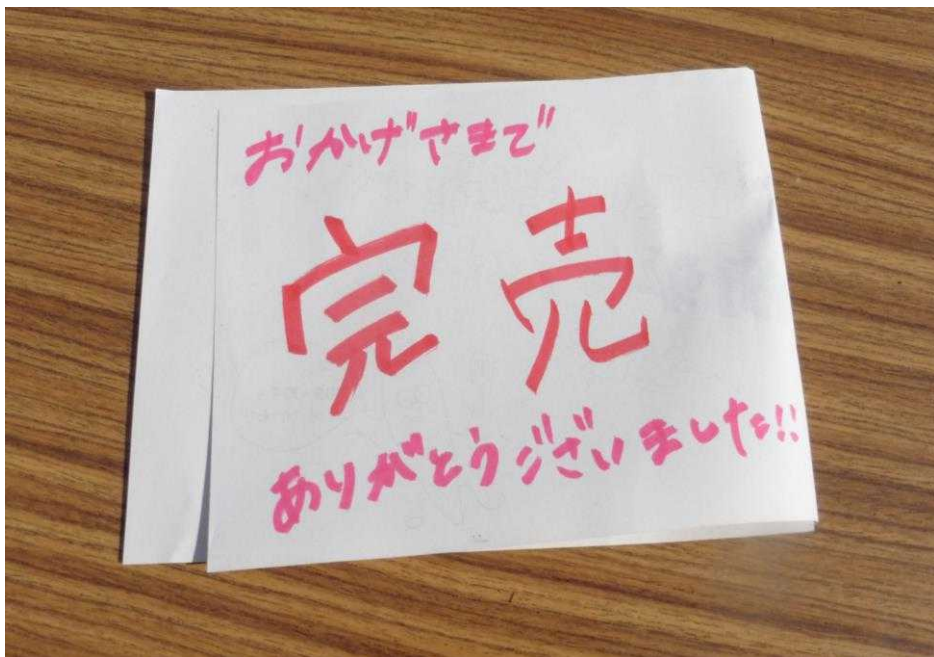
完成！！

<ポイント>

油多めで焼くとカリカリになります。
チーズが溶け出るとカリカリにならない場合があります。



商品名	小麦	乳	卵	そば	落花生	えび	かに	大豆
じゃがいももち		○	○					



I MOMOCHI

座光寺を食べよう！

～交流の場と景色を添えて～ (座光寺地区)



【研究メンバー】

加藤夢月 鞍馬大祐 石原楽都
伊東秀晃 塩澤亜美 平沢愛華
本多陽菜 米山美空
原真由美(指導教員) 三ツ井洋樹(座光寺公民館主事)

【ご協力いただいた方々】

座・女子力様 座光寺公民館の皆様
パノラマファーム大門様 エス・バード様
吉丸屋様 川本屋様 元善光寺住職様

1. はじめに

座光寺を巡ったり、地域行事に参加したりしていく中で、「交流」することを楽しみにしている人がいることや「景色」がよいことに触れた。また、座光寺を代表する「座光寺万十」やリニア開通に向け取り組んでいる「座光寺の名物をつくろう！コンテスト」などの「食」についても魅力を感じ、「食・交流・景色」の3つをキーワードに活動を進めていくことにした。

2. 研究課題

「食・交流・景色」の3つをキーワードとし、交流の場を通して座光寺でしか見られない景色や地元で取れた食材を紹介し、2027年リニア開通に向けたPRとして、まずは地元の方に座光寺の良いところを知ってもらいたいと思い、課題に取り組んだ。

3. 研究経過

- 5月 フィールドワーク
- 7月 座光寺夏祭りへ参加・アンケート調査
- 9月 渋谷の親子との交流会 及び 運動会で配布 のための 商品開発
- 10月 渋谷の親子との交流会・運動会へ参加 ← 台風の影響により中止
- 12月 座光寺を食べよう！ファミリークッキングの実施

4. 研究内容

リニア開通に伴い、座光寺の魅力を伝えるための主な活動は以下二つ。

(1) 渋谷の親子との交流会及び座光寺地区大運動会への参加

渋谷の親子との交流を通して、座光寺の魅力を地域外の人へ伝えられるのではないかと思います。翌日に計画されていた座光寺地区大運動会では、地域住民との交流を通して、自分たちの活動を地域住民の方にPRできるのではないかと思います。しかし、両日とも台風の影響により中止となり、参加できなかった。運動会については、後日景品配布の機会があり、各地区に座光寺のリングを使ったカップケーキを配布した。

(2)座光寺を食べよう！ファミリークッキング

2027 年リニア開通に伴い、座光寺の魅力をまずは座光寺住民に伝えることが重要なのではないかと考えを改め、12月1日に保育園児・小学生を対象とした親子料理教室を企画した。そこで、座・女子力の方から「名物をつくろう！コンテスト」で生まれた新しい名物がコンテスト後に活用されていないから、ぜひ料理教室のメニューに！というお話をいただき、昨年度の名物づくりコンテストのレシピから、「そば粉クレープのサラダチキンロール」、餃子の皮で作る「りんごのおいしい小さなピザ」の2品、私達で考案したデザート「マロりん」の計3品を料理教室のメニューとした。料理教室の他にも、ゲーム、勉強会を企画した。勉強会では、そば粉を提供していただいたパノラマファーム大門さんの紹介に加え、「りんご博士」と題したりんごにまつわる知識を保護者の方にも興味を持ってもらえる内容で紹介した。当日は座・女子力の方と公民館委員の方にご協力をいただき、開催した。

5. 考察

渋谷の親子との交流会、座光寺地区大運動会が中止になってしまい、活動することはできなかったが、改めて全員が活動と真剣に向き合い、より良い活動を作り上げていくための良い機会になった。それにより、準備してきたものを無駄にしないように全員で話し合い、次に繋げることができた。

親子料理教室は、私たち高校生が主体となって行った活動だったが、一から全部自分たちで企画していくことは難しく、主事さんにたくさんアドバイスをいただきながら準備を進めたが、当日は座・女子力の方や公民館委員の方々に助けていただいた場面が多く、「自分たちで」ということの難しさや大変さを実感した。当日に予想されるたくさんのトラブルの対応策を考えてから当日に臨んでも、予想しきれないトラブルがあったが、臨機応変に対応することができた。当日の様子は新聞にも取り上げていただき、私たちの活動をPRする機会にもなった。準備期間が短く慌てた部分もあったが、当日の参加者から、「楽しかった」「ぜひまた機会を作ってほしい」「高校生と交流できて嬉しかった」などの感想をいただいたことから、私たちが活動することの意味を感じることができた。

南 信 州 新 聞

2019/12/06



飯田市座光寺公民館と飯田OIDE長姫高校商業科3年生の9人は1日、親子料理教室を座光寺の料理教室で開いた。親子約20人交じりながら、地元食材を使って高校生や住民が考案した料理品を作った。

同地区は、リニア時代に向けた名物づくりの取り組みの一環として「名物をつくろうコンテスト」を開催し、地元食材を使った「りんごのおいしい小さなピザ」や「そば粉クレープのサラダチキンロール」などの作品が出展された。当日は、この作品を活用して親子料理教室を開催した。

この日は、クイズやゲームを交えながら、地元食材を使った料理作りや、地元産品の紹介などを行った。高校生は「りんごの活用」や「そば粉の活用」など、地元産品の活用方法について、高校生が紹介した。高校生は「りんごの活用」や「そば粉の活用」など、地元産品の活用方法について、高校生が紹介した。

座光寺OIDE長姫生が企画

地元食材で料理教室

6. 終わりに

一年間活動を行ってきて、座光寺地区には隠れた魅力や地域資源がまだまだたくさんあること気づくことができた。私たちが行う活動が、これからの座光寺地区に、2027年のリニア開通に少しでもプラスになることを願い、これからも活動を続けていきたい。今まで行ってきた活動は地域の方に座光寺の魅力を伝えるためのきっかけであり、これからの活動で座光寺地区のさらなる活性化を目指していきたい。

私たち高校生の世代が真剣に地域と向き合い、活動をしていくことが、座光寺地区に限らず、飯田市全体のこれからの繋がる一番大切なことだと思う。

今まで私たちの活動を支えて下さった座・女子力の皆様、公民館委員の皆様、主事の三ツ井さん、原先生、私たちの活動に携わって下さった全ての方々に感謝したい。

☆1年間の活動☆

フィールドワーク



アンケート



運動会



商品開発



料理教室



🍏 公民館長 塩澤 哲夫 🍏

座光寺での学習に来てくださった皆さん、一年間ありがとうございました。

地域とのかかわりの中で、特に、これまで座光寺で取り組んできた「座光寺の名物を作ろうコンテスト」のレシピに基づいて「親子料理教室」を行っていただきました。大変お世話さまになりました。この企画に向けて自分たちの料理を考えてくださったり、当日の参加者への対応もすべて担ってくださったりと、皆さんの企画力と対応力に感心いたしました。

もっといろいろな場面で、地域の方とのふれあいを持って地域に活力をもたらしingていただいたり、若さを分けていただいたりと活躍していただきたかったです。が、台風の影響などのために十分に実施できなかったこと、本当に申し訳なかったことと残念な思いとでいっぱいです。

高校を卒業されても、このご縁で、ぜひ座光寺に足を運んでいただいて、交流を続けていただけたら嬉しく思います。皆さんのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

🍏 公民館主事 ミツ井 洋樹 🍏

「特産品を使った商品開発」と「地域の人と一緒に協力しながら世代間交流の企画」

4月・5月の活動初期の頃、このグループでやってみたいことを出し合った際の内容です。その後、座光寺を巡り、行事に参加しながら地域の人たちとコミュニケーションをとっていく中で、皆さんの活動の軸である「食」「景色」「交流」の3つのキーワードが固まっていきました。

そして、座 女子力の皆さんとの協働による、渋谷区の親子を対象としたおやつづくりや、運動会でのりんごのマフィンケーキの配布は、残念ながら台風で流れてしまいましたが、その後の「親子料理教室」につながる準備だったのかなと、今になって思います。

一年を通して考えると、「親子料理教室」ができたのは、初めから皆さんの中に「やりたいこと」がイメージできていて、さらに「座光寺の良さ」をトッピングした、素晴らしい活動だったのだと思います。企画から準備段階では、大変な思いをした時もあったかもしれませんが、地域の方に協力してもらいながら、座光寺の子どもたちのために実施できたことは、本当にありがたかったです。

振り返りをした際にも、「自分で考え自ら動くこと」や「みんなでやること」の大切さに気付けたのも、皆さんの素晴らしいところだと思います。

最後に、これからの人生、楽しいこともあれば、哀しいこともあるかと思いますが、さまざまな人との出会いや多くの経験から、自分自身の世界を広げていって下さい。皆さんなら大丈夫だと信じています。

🍏 石原 楽都 🍏

活動の案だけ出しておきながら、家の都合で仕方がなかったとはいえ、校外活動にまったく行くことができず残念だったと感じました。

これ以降ないとはいえ、悔いが残る結果となりましたが、他の部分はそれなりに楽しくできたので最後のまとめがもっと楽になれば、とても楽しい授業だと思います。

🍏 伊東 秀晃 🍏

まずは無事に発表ができたのでよかったです。1年間を振り返ると、自分はあまり座光寺のことを知らなかったけど、地域の方にお話を聞いたり、イベントに参加したりと活動をしていく中で、座光寺の外側だけではなく、内側も見ることができてよかったです。まとめの時は、何も力になることができなかったけど、1年間この班のメンバーで活動ができて本当によかったです。

🍡 加藤 夢月 🍡

課題研究は楽しかったことよりも辛かったことの方が多かったと思うけど、1年間の活動で8人全員が成長できたことが1番の成果だと思います。課題研究で地域と向き合って、地域課題を解決することも大切だけど、それよりもみんなで何か1つのことをやることに意味があるのかなと思いました。自分たちで考えて、何かをやる機会は中々ないから、高校生の今貴重な経験ができたと思います。

4月に始まったときは、自分達がステージに立って発表することなんて想像もつかなかったけど、1年間頑張ってやってきたから、最後に8人全員でステージに立って、発表できてよかったです。

1年間ありがとうございました。

🍡 鞍馬 大祐 🍡

1年間、本当に色々なことがありました。周りの人とこんなに近くで関わるができる授業はなかったのも、とても楽しくできました。副リーダーとしては本当にリーダーを支えることができず、申し訳なさでいっぱいです。

普段、自分の地区のイベントに参加してこなかったのも、地域のイベントに参加できてとても良い経験ができたと思います。1番思ったのは人の支えがどれだけすごくて、どれだけ大切かわかりました。

🍡 塩澤 亜美 🍡

私はこの1年間の活動を通して2つの事を克服することができたと思います。

1つ目は自分なりの意見を言えるようになった事です。私は思った事がなかなか言えませんでした、意見を出し合うという場面で言えるようになり、よかったです。2つ目は、人前での緊張です。課題研究発表会で絶対カムと思っていましたが、本番は今までと違って緊張せずに言うことができたのでよかったです。最後に、この活動を通して私は飯田市を少し好きになることができました。

🍡 平沢 愛華 🍡

最初はみんなで協力しながら何をすればいいのかわかりませんでしたが、やり始めると意外と意見や、やりたいことが見つかりスムーズとはいきませんでしたが、達成感を得ることができました。

イベントのポスター作りは楽しくでき、かわいいとほめてもらうことができよかったです。パワポはもう少し協力してやればよかったと思いますが、自分なりの字体・色合いでパワポを完成させることができて勉強になりました。

🍡 本多 陽菜 🍡

皆でまとまってひとつの事ができた。1人でやるよりも皆でやった方が色々な意見や考えが出て、これからやろうとすることもどんどん広がって考えていくことが楽しかった。この1年間を通して座光寺地区の色々な人と出会って、触れ合って、始めた時よりも座光寺について知ることができた。

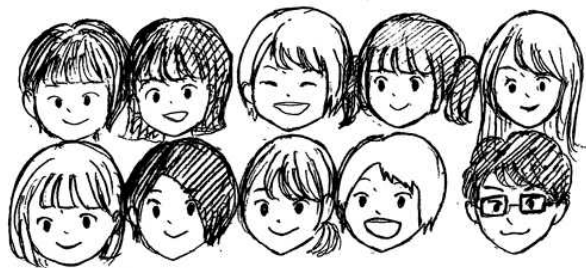
就職先が座光寺にある地域密着に力を入れている会社になったので、就職する前に座光寺について知ることができて良かった。

🍡 米山 美空 🍡

終わってみれば、無事に発表できて良かったなと思います。

今まで当たり前のように課題研究に携わってきたけれど、発表した後に初めてほめてもらえる機会があって、嬉しかったです。発表が苦手な私にとって、とても苦痛な授業に感じることもありましたが、みんなの力がとてもすごく、助けてもらいました。3年間の集大成となるすばらしい発表会でした。なかなか地域課題を授業で解決する高校はないので、すごいです。

いっしょに松尾を盛り上げよう！～みんなでつくる地域～（松尾地区）



【研究メンバー】

中山 みな美 鎌倉 音々 北村 歩理
中原 ほのか 原 ひまり 西尾 瑠華
三嶋 らな 宮下 晴希
武藤 悠子（指導教員） 三船 功基（松尾公民館主事）

【ご協力いただいた方々】

ゆめのや 様 Massa OshimA 様
サンロード八幡商店街 様

1. はじめに

“少子高齢化の現在に、こんなにも若い世代の移住者が多い地区があったなんて！！！”

「松尾地区は12地区から成る、飯田市の中でも大きな地区です。」これは、松尾地区について何も知らなかった私たちが三船主事さんから初めて教えていただいたこと。そうは聞いたものの、調べてみるまでこんなにも大きな、そして、多世代が暮らす地区であった事を実感することはできていなかった。

移住されてくる方のほとんどは、市内や近隣市町村の方が多く、見えている魅力、感じている魅力が、何か特別なモノなのではないか！？そんな疑問から、私たちの研究ははじまっていった。

2. 研究課題

この地域のどんな魅力が、いつまでもこの地域を多世代が暮らす地域にさせているのか。

研究を深める度に感じるこの地域の魅力と、ここに住まれている方々の世代ごとの気持ち。古くから松尾に住む方には、今まで以上に地域の事に関心をもってもらいたい。移住されてきた方には、松尾の良い所を共感してほしい。たくさんの方々と共通の思いを持ってもらいたい。たくさんの方に、私たちに介した、共通の何かを提供したい。

『いっしょに松尾を盛り上げよう！～みんなでつくる地域～』

いつしかこの言葉を自分たちが実現するために、私たちは、研究活動を進めるようになっていた。

3. 研究経過

- （4～6月）フィールドワーク：松尾公民館へ 聞き取り調査①：商店街やOne Madeさんへ
- （8月）鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭へ希望者参加&1学期行った調査のまとめと分析
- （9月）聞き取り調査②：松尾小学校・緑ヶ丘中学校、運動会実行委員会出席
- （10～11月）運動会に向けての準備（運動会実行委員会にてプレゼン・景品用うちわ制作）→運動会中止
- （11～12月）SUN C a f eの準備・実施（八幡商店街へ相談、ゆめのやさん&Masa OhshimAさんと交渉）

4. 研究内容

（1）松尾？？？ ～ ①館長さんのところへ行こう！ ～

4月、ケンカもしながら悩み決定した活動地区。松尾について詳しく知らない者が多く、新鮮な気持ちでまずは松尾公民館へ行き、館長さんとお会いした。お話をもとに、12地区の特徴と世代構成に着目しながら、地区ごとの人口や世代分布を地図にまとめた。

②商店街に行こう！松尾の悩みはなんだ？！

サンロード八幡を中心に商店街を歩き、街並みを見ながら店主さんたちへインタビューを実施した。老舗のお店から新しくできたお店まで、共通することはこの地区に住まわれている方の温かさと、土地柄の良さ。多世代で暮らすご家庭も多い

ことが特徴。一方で、大型店の影響を受け、若い買い物客の姿が減っている現状も伺った。しかし、年配の方の若い世代の行事のためのお店利用により、実際には利用していない若い方の生活の中に、お店の魅力が入ることができているのではないかと感じた。

(2) 若い世代はどんな事を考えているの!? ～ 松尾小学校(6年生)&緑ヶ丘中学校(3年生)聞き取り調査 ～

白戸先生からのアドバイスをもとに小学生、中学生ともに、小グループを作って聞き取り調査を実施した。大きな枠で質問項目を決めていき、実際の会話の中で話を広げて聞いていくことで、より多くの情報や聞き取り対象の気持ちを調査することができた。

ここで分かったことは、小学生では地域を知る授業が多く行われており、松尾の“良さ”魅力“が次から次へと出てきた。さらに、いずれはこの地域に戻ってきて暮らしたいという声も多かった。一方で、私たちに近い中学生世代は、自立に向けて様々な考え方を持っており、良さを認めつつ外に出たい思いの声も出てきていた。

(3) いろんな世代をつなげたい! ～ ①10月13日(土)運動会の景品でうちわ配布 → 台風のため中止 ～

どの世代にも使ってもらいやすい点と、形と共に思い出が残る点から、私たちは、うちわ制作を決めた。デザインは、鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭をモチーフに、表は法被、裏は中心に三つ亀甲、その周りに各地区の名前と、地区ごとの法被の色で足袋を描いた。このうちわには、メンバーの似顔絵と松尾に住んでいる方へ向けたメッセージをカードに載せ、添付した。多くの世代に行き渡るように、「とびっくら」と「ちびっこ玉入れ」で配布する予定だったが、残念ながら運動会は中止となってしまった。

②12月13日(金)&14日(土) SUN C a f e

～ 多世代が交流できる場、多世代が松尾の魅力を共感できる場をつくりたい! ～

運動会中止を受け、その思いを強くした私たちは、サンロード八幡商店街の一角で、カフェを開かせてもらう提案をした。商店街の方々は快く場所をお借りすることを承諾してくださった。保育園児から小中学生、そして高校生までの子供たち世代と子育て世代からその上の世代まで、多くの世代を呼び込むために計画を練った。

当日は、温かい飲み物と松寿堂さんのどら焼きを試食で提供することで、来てくださった方と松尾の商店街を味覚で共感できるようにした。さらに、小学生以下対象に、商店街のお店を回りながら手作りのスタンプを押す、スタンプラリーも実施。また、工業科の先生にお願いし、私たちのデザインをクッキー型にしてもらった。これを Massa OshimA さんに依頼し、マドレーヌ、三つ亀甲と古墳のクッキーを、ゆめのやさんに依頼し、季節感あるパンを作ってもらい、これらを当日販売した。多くの世代をつなぐ場となりますようにと願いつつ...

5. 今後の課題

今回の研究の中で、地域の方の多くがこの地域に魅力を感じ、小中学生は楽しめる場所を、年配の方は集える場所がほしいと思っていることがわかった。また他地区からの移住者も多く、多世代が住むこの地域だけでも、住んでいる方々をつなげるものが少ないのではないかとという点に課題を持ち、共通の何かを持つことが必要なのではないかと仮説を立て研究を進めてきた。

うちわを制作・配布、SUN CAFEの開店。多くの方に協力していただきながら、私たち自身が地域の方々をつなげる役になっていけるよう活動してきた。多くの世代が望む世代間交流を持てるような具体的な成果につなげていく研究までには至らなかった。私たちの活動は終わってしまうが、地域の方が望む形になるよう、交流できる場を継続して開催していくことで交流の機会が増え、多世代の共通の場として、地域全体で共通の思いを持っていたら何かとして、多世代が暮らすこの地域が繋がっていくのではないだろうか。

6. 終わりに

この仲間に出会って自分の言動について考えるようになった。自分の思っていることを言うことや、周りを見て行動することの大切さを学び、人として成長することができた。また、周りの方に支えられたからできた活動であった。地域の方々と話すことで、コミュニケーション能力や感謝の気持ちを伝えることの大切さを学んだ。支えてくださった地域の方々、主事の三船さん、担当の武藤先生、大変お世話になりました。

松尾地区

いっしょに松尾を盛り上げよう
～みんなで作る地域～



運動会のために・・・

うちわ制作

高校生が運営するカフェ

Sun☀Cafe

🕒 12/13(金) 16:00~18:00
12/14(土) 10:00~17:00

📍 八十二銀行八幡支店向かい
まちかどサロン

このうちわをカフェに持ってくると...!





飯田ODE県立高校商業科3年生による

Sun Cafe

12日13日(金) 16:00~18:00
14日(土) 10:00~17:00
場所: まちかどサロン

いっしょに松尾を盛り上げよう!

ーみんなてつくる地域ー

ゆめのやさんの季節限定パン
Mitsue Oshimaさんのクッキー
マドレーヌ

一試を販売します。
★カフェで食べて食べてもOK
★お持ち帰りでもOK

小学生以下スナックアタリできます!

スタンプを集めたらささやかな景品が...!
そして更に!
私たちの製作したうちわを持ってきて
提示してくだされば...?

ご協力: 主要産物物産、セイバウズ、小田原、山梨県、マルブン (長野県、五十嵐)
主催: 飯田ODE県立高校 商業科 飯田県立松尾地区振興会、松尾公民館
お問い合わせ先: 飯田ODE県立高校 商業科 山梨 支店 TEL: 0265227117

Sun Cafe

Cafe

たくさんのご来店
商品完売

ありがとう
ございました!



活動の様子

★松尾地区

9月

運動会実行委員会



松尾小学校へ聞き取り調査

うちわ制作



八幡の秋祭り



11月

サンロード八幡サロン



ゆめのやさん



12月

Massa oshimAさん



カフェ



こうこうせいといっしょ ～90分の茶話会～（竜丘地区）



【研究メンバー】

小木曾 未結 小池 亜沙夏 坂井 崇
佐藤 美瑠 澤口 佳歩 壬生 歩
宮下 藍斗 山下 莉野
林 秀孝（指導教員）新井 康平（竜丘公民館主事）

【ご協力いただいた方々】

鷺流峡復活プロジェクト様、駄科公民館の方々
上川路地区の方々

1. はじめに

私たちは、竜丘地区について知っていることがなく、また、住んでいるメンバーがいないので情報源がありませんでした。そのため、どこから手を付けていいか分からず苦戦していました。ですが、駄科の夏祭りへの参加や、フィールドワークを行っていく中で「交流」を地域課題として活動を行いました。

2. 研究課題

上川路住民の方に話を聞いていく中で、以前は趣味や気が合う仲間が定期的に集まり交流をする機会や組織が多くありました。しかし、年々その交流の場が減り、家族と話す以外の機会を持たない高齢の方が増えていることを知りました。また、高齢の方は遠くまで外出することはもとより、近所でもなかなか出歩くことが少なくなり、人と話をすることがおのずと失われていることもわかりました。趣味や気の合う仲間と話をしていたことが「なつかしい」との声を聞きました。

そこで、私たち高校生も地区の方も気楽で楽しく、無理なく参加できる機会と場の提供ができなないかと考えました。以前のようにとはいかないまでも、定期的に高齢の方が集まり、気軽に話しができる「交流の場」を設けることができるかを課題とした。

3. 研究経過

5月 鷺流峡の竹でメンマ作りの手伝い
フィールドワーク（鷺流峡・ギフチョウ
公園・臼井川秘境・古墳）

6月 街頭インタビュー（アイパン・キラヤ）

8月 駄科夏祭り（チョコバナナの販売）

9月 上川路の方からお話を聞く

10月 4日 第1回お茶会 25日 第2回お茶会

11月 1日 第3回お茶会 15日 第4回お茶会 22日 第5回お茶会

12月 24日 商業科発表会



4. 研究内容

交流の場を設けるにはどうしたらよいか、実際に行い交流内容の改善ができるか、交流の場の運営等をバトタッチできるかについて検討・実践した。

（1）場所の確保

高齢の方に気軽に外かけていただくために、集まりやすく、天候に左右されず、また冷暖房設備や水道・トイレがあって利用しやすい施設であることが大切と考え、上川路公民館を借りることにした。

（２）交流内容

話し合いでは様々なことが出されましたが、高校生視点になりがちで、高齢の方が何を望んでいるかわかりませんでした。高齢の方が望むことを調査することも考えましたが、とにかく一度お茶会を開催してから考えることにしました。そこで、お茶会に参加をしてもらうために、日時、場所、一人一品持ち寄ること、会の趣旨を記したチラシを手書きし回覧板で回してもらうことにしました。

１回目のお茶会の振り返りをおこない、ただお茶を飲んで話すことが大変であることや、それだけでは退屈になってしまうことがわかりました。高齢の方の声を参考にして、頭の体操として自作のクロスワードパズルやナンプレ、あるいは百人一首・トランプを実施する、童謡唱歌の合唱を行えるように歌詞を用意するなどに取り組みました。

（３）日時の設定

高齢の方は週末に家族と過ごすことがある、また公民館は平日が借りやすいことと授業がある金曜日午後にすれば、無理なく実施できると考えました。開催時間は長くても短くてもよくないと考え、私たちの移動と準備・片付けの時間と合わせて課題研究の時間から９０分間が望ましいとしました。

（４）お茶会の運営

兎に角、実施して考えてみようとした１回目は、私たちが予想していた人数より多くの人に集まっていただけてうれしい気持ちで、持ち寄った漬物・煮物・お菓子を食べながら話をしました。でも、なかなか会話がすすまず、ただ話をしているだけでは退屈になりました。参加者の方が歌を歌いましょうと提案していただき、「信濃の国」をみんなで歌い１回目の会を終えました。２回目以降は、振り返りをおこない、改善・工夫を重ね、進行役を設けてお茶会を進めました。

公民館に到着して、まず、そうじと会場の設営をおこない、持ち寄っていただいた漬物や果物などを盛りつけるなどの準備は、私たちが分担してできるようになりました。片づけも同様でした。

１０月から１１月のわずか２ヶ月間で５回実施することができ、参加者の方からは「毎回やるのが違うから楽しかった。」や、「みんなで集まる機会がないから、集まる場所ができて嬉しかった。」、「若い人と話ができて面白かった」などの嬉しい言葉をかけていただきました。

また、お茶会の中で、参加してみての感想を伺いながら、この会を今後どうしたいかを問いかけてみました。すると「できることなら今後も続けたいが・・・高校生がやってくれたことはありがたく、今後は互いに声を掛け合い実施してみたい」との声を聞くことができました。

５．考察

上川路お茶会は、高齢の方をはじめとする地域の人たちの交流の場の提供のきっかけをつくることができたなら、高齢の方などの交流につながるとの仮説からスタートしました。私たちは高齢の方との交流を楽しめ、準備・片づけ・運営などそれぞれが分担してできるようになり、足りないことに気づきができるようになったと考えています。

気軽にできるお茶会をコンセプトにして、実際に私たちが実施をして、高齢の方がその様子を見てできそうであると考えていただいたようで、高齢の方が自分たちで運営をして上川路お茶会を月１回開催することを決めたと伺っています。私たちが企画「上川路お茶会」がきっかけとなり、今後は自分たちが開催するようになったことは、地域の課題（願い）の解決策を提供できたと考えている。

６．今後の課題

機会があればお茶会に、次年度以降の課題研究「竜丘班」が参加（可能であれば年１回か２回程度）する、あるいは地元の若い世代が参加して一緒に運営ができるようになれば良いことであると考えています。気軽に誰もが参加できることが理想である。

生徒のコメント

①感想・印象深いこと・苦労したこと、②自分が成長したこと学んだこと、③来年度リトライするなら

＜小木曾 未結＞

①一年間、竜丘地区で活動してきて今まで知らなかった竜丘の魅力を知ることができました。最初は場所も何があるのかも全く知らなかった私たちが竜丘地区で一年間活動したことで竜丘について知ることができました。昔から大切にされているものがたくさんあることや竜丘の方々はとても温かく優しい人たちばかりで活動していてとても楽しかったです。最初は特にやりたいことも見つからず課題を見つけるのに精一杯で前に進むことができずにいました。ですが、課題を見つけようとしなくていいとアドバイスを頂きようやく私たちがやりたいと思えることが見えてきました。

お茶会を開いてみてもし、私たちがお茶会を開催していなかったら来てくださっている方々は家にいることになっていたのかもしれない考えると開いて良かったと思いました。参加してくれた方からも「楽しかった」「高校生と話せてうれしい」などのうれしい言葉をいただけたのでお茶会をやってよかったと心から思いました。私自身も高齢者の方と関わることはなかなかないので貴重な経験ができました。私たちの世代では知らないことや経験してきたこと、家族の話や世間話をとても楽しそうに話してくれて聞いていて面白かったし楽しかったです。そして何より聞いていてとてもほっこりしました。ですが、お茶会を開催する中で初対面なので話すことがなくなってしまったり、沈黙が続いてしまったりすることもあったので大変でした。

②私は今回の交流を通して高齢者の方と話すのはとても貴重なことで今のうちにたくさん話を聞いて学ぶことがたくさんあると思いました。私たちと関わること、話すだけで喜んでくれたのでこれからはたくさん高齢の方と関わって話していきたいです。

③来年も行うことができるとしたら参加者の方一人一人がやりたいと思っていることをやっていきたいです。その時にしかできない体験もできると思うし、その方がいなかったらできないこともたくさんあると思うので参加者全員と楽しい会にしたいです。

お茶会の継続も決まったので私たちが作った会がこれからもっとパワーアップして素敵な会になったら私はとてもうれしいです。

＜小池 亜沙夏＞

①私は一年間竜丘で活動してきて、地域の方と深く関われたのがとても心に残っています。初めて竜丘という場所に出ていき、メンマ作りをしたときに地域の方の優しさを感じその後も優しさを感じる事が多くありました。また、自分達で地域に出ていったから竜丘の素晴らしい名所などを知ることができました。

②私達が中心になって行ったお茶会では上川路の方が一緒になって交流ということについて真剣に考えて話合ってくれたことが嬉しかったです。私達高校生だけで問題を解決することはできないし、地域の方だけで何か行動を起こすことも難しいと思います。だからこそ高校生が何かきっかけをつくり、地域の方と関わることの大切さを実感しました。今の高校生は地域と関わる事が少ないと思うので、課題研究を通して地域のことやあたたかさを知ることができてよかったです。お茶会は最初なかなか自分から話しかけることができなかったし、どこを改善したらもっと楽しい会になるのか考えるのは大変でした。しかし回数を重ねるごとに自分自身も楽しくなっていて、自分から話しかけられるようになるなど成長できることも多くありました。最後のお茶会では、なくなるのが悲しいと言ってくれた方が多く、何とかして継続させたいと思ったし交流をこれからもしたいと思っている人がたくさんいるのだと思いました。私たちが卒業したら継続するのが難しいという意見が多かったけど、それでもお茶会を継続したいということで上川路の方だけでお茶会を続けることになり、とても嬉しかったです。

私たちがきっかけをつくったことで数回だけのお茶会ではなくこれからも続いていくものになり、高校生だからこそできることはあると感じました。上川路の「交流がない」という課題はお茶会を通して少しでも改善されたと思うしこれからもお茶会でたくさんの人が集まるものになっていってほしいです。またいつかみんなでお茶会に参加したいです。

お茶会ができたのは主事さんや竜丘の方のおかげです。

③来年も行うとしたら、私達は駄科の祭りでチョコバナナを売った時に計画不足なことがあり困ったことが色々あったので、自分達で企画を考えて実施するときは細かいことまでしっかりと計画したいと思いました。

<坂井 崇>

①初めに竜丘地区でお世話になった上川路公民館の皆さんに改めてお礼を言いたいです。一年間ずっと地域の方々に支えられて発表会まで来てくださっておかげで緊張もほぐれ、みんないい発表ができとても満足のいく発表ができたなとかんじています。今この課題研究の授業を振り返るといろんなことが脳裏に浮かびます。話し合いでまとまらなかったことや、祭りの参加でやや失敗に終わったことなどうまくいかないこともありました、いい思い出もたくさんあります。特に印象深かった出来事はやはり最後の花束をもらったことです。本来なら課題研究に協力してくれた皆さんに自分たちが恩返ししないといけないのに地域の方々が僕たちに感謝してくれていたことが自分たちのやってきたことが認めてもらった気がして頑張ってきてよかったと感じる瞬間でした。

②自分はこの課題研究で初歩的なことだけど、「やってみる」ことの大切さを学びました。自分たちはもともとお茶会を活動のヒントを得るために開催したのにそれこそ地域の方が求めていることと知りそれにシフトしていきました。つまりお茶会を開いてお話を聞こうと思わなければこの課題研究は成立してないことになります。はじめのビジョンとは違うゴールだとしてもまずは行動することが大切だと知りました。

③自分たちのグループは竜丘地区のなかでもさらに上川路という地域に絞って活動してきたのでもし来年行うとしたら今度は竜丘地区全体の大きな課題を何か解消できるような取り組みをしていきたいと思います。それぞれ活動の候補に挙がっていたメンマを活用して名産品として PR していく活動も楽しそうだなと思いました。

<佐藤 美瑠>

①竜丘地区について知るためにスーパーなどでアンケートを行ったとき初めて竜丘地区の方と関わりました。忙しいはずなのに足を止めてアンケートに協力してくれる方が多く、竜丘地区の方の温かく優しい人柄に触れたのが印象的です。活動を行っていくなかでいくつか課題を見つけたのですが、その中に私たちが解決できるような課題が見つからず、どんな活動を行うかを決めるまでとても苦労しました。ですが、主事の新井さんと林先生からのアドバイスなどもあり上川路でお茶会を開催することができました。はじめは、人が来てくれるかととても不安だったのですが、地域の方の協力もあり多くの方に参加していただくことができてとても嬉しかったです。また、お茶会継続の目標も地域の方のおかげで達成することができました。この活動は、私たちが始めたとはいえ、地域の方の協力がなければできていませんでした。そして、地域の方一人ひとりが課題について真剣に考えているからこそ解決できたと思います。

②この活動で、今まで何も知らなかった場所でも真剣に取り組めば地域課題を解決することができると学びました。課題研究が始まった4月当初は、課題を見つけることはできても竜丘のことを知らない高校生が、地域の人でも解決できなかった課題を解決できるわけがないと思っていました。ですが、活動を終えて、地域の方から「ありがとう」「楽しかった」などのありがたいお言葉をかけていただき、高校生だからこそ地域課題を解決できたと思うようになりました。また、今までは大人ができないことは高校生にはできないと思っていましたが、それは、活動をしてみないと分からないということを学びました。生活していくなかで、課題や問題を見つけたとき

は、諦めるのではなく何か行動に移していきたいです。

③来年も行うとしたら、上川路の方に協力していただいて、小学生くらいの子供との世代間交流をしていきたいです。

<澤口 佳歩>

①一年間竜丘地区で活動してきて、実際に地域の方々と関わり、話をすることで今まで知らなかった竜丘の魅力や地域の方々の優しさをとても感じられました。最初は、竜丘はどんな所で何があるのかも分からなかったですが、臼井川秘境や馬背塚古墳などのフィールドワークや、メンマ作りで主事さんや竜丘地区の皆さんが積極的に活動に関わってくださったので、私たちも楽しく活動することができました。

沢山話し合い、地域で取り組んでいることや行事に参加させてもらい、普段は出来ないようなことを体験できたのでとても楽しかったです。

課題解決に向けて活動しようとしていた時に、フィールドワークで行った場所のどこかを使いその場所の魅力発信やその場所にちなんだものを作り、活性化していくという案も出たけど、それをしたことで地域の課題解決に繋がるわけではなかったので出来ず、そこからなかなか地域課題が見つからなくて苦戦しました。どうすればいいのか困っていた時に主事の新井さんの紹介で牧内さん夫婦にお話を頂き、話し合いを進めて課題を見つけることが出来、その解決策としてお茶会の開催を行え、新井さんや牧内さん夫婦、そして参加してくださった地域の方々に感謝したいです。

お茶会を行うと決めても、どうなるのか私達にも分からずとても不安だったけど、予想以上の方が会に来てくださったので嬉しかったです。私達が参加できるお茶会が終わった後も継続してくれているので、今後ずっと続いたらいいなと思います。たった5回のお茶会だったけど、思っていた以上に地域の方々が参加してくれ、楽しんでもらうことが出来ました。

②一年間課題研究をやってきて、私は人と話す事や人前で発表する事がとても苦手だったけど、課題研究では人前で話したり発表したりする機会が多くなったので、何回もやるうちにあまり苦手という意識がなくなっていったので少し成長できたと感じました。

③もし来年もこの活動を行うとしたら、参加してくれる方に分かりやすいように予定をしっかり決めておき、もっと多くの方が来られるような会にしたいと思いました。

<壬生 歩>

①課題研究の地区が竜丘でよかったと思いました。地区の皆さんがとても温かく、優しい方たちばかりで私たちは伸び伸びと活動ができました。最初に行ったフィールドワークでは、ここが竜丘だと初めて知ることばかりでした。しかし古墳や秘境などとても気持ちのいい場所ばかりで、初めて行った場所でも竜丘に魅力を感じました。また、いきなりお邪魔した牧内さんもいいお話を聞くことができて、これからの先の課題研究が楽しみであると思いました。

②駄科のお祭りに参加させていただいた時には、私たちの準備不足や先の明確なことが決まっていなかったにもかかわらず、水鉄砲のことまで指導してくださる方がいて、竜丘の方の暖かさを感じました。また私たちが満足するだけでなく、お祭りに参加していた方からも「よかった。」と言ってもらえてうれしかったです。ここでやっと課題研究が始まった気がしていたけれど、この先が問題でした。

牧内さんからお茶会の話が出たときはうまくいくか、とても心配でした。第一回目では会話が続きなくとても気を遣わせてしまったと思いました。二回三回と開催するにあたって皆さんに楽しみにしていただけ。期待をされているのがわかりました。

③何とか継続をすることができたと聞いたときは、上川路の方がこのお茶会を楽しんでもらえたのかなと思いました。何より新しいことを始めるきっかけを作り出せたことが私たちにとって一番の成果だと感じました。

<宮下 藍斗>

①この課題研究でメンマ作り・フィールドワーク・駄科の夏祭り参加・お茶会などにより竜岡地区について知ることができました。メンマ作りでは、竹からどのようにメンマを作っているか知ることができました。また、地域の人は関わりやすくお手伝いは楽しくできました。フィールドワークでは、鷺流峡・ギビチョウ公園・臼井川秘境・古墳・城跡の公園などに行き、私たちの竜岡地区に思っている印象は変わりました。駄科の祭では、チョコバナナを作り売りました。買って貰えるか不安でしたが、多くの人が買ってくれ、おいしいといってもらえました。その後、人との関わりという点でどうしていくか考え、地区の方とお話をし、公民館を使って、お茶会を作ることにしました。お茶会初日、会話をメインとして行いましたが話の話題・内容などが見つからず自分の中でも続けていくのは厳しいと思っていましたが、第2回目以降歌やパズル、百人一首などを取り入れていくうちに、地域の人と話せるようになり、また毎週金曜日の午後の授業が楽しみでした。

②この活動を通して私は人との関わり・スケジュールを組むことが大事だと思いました。地域の人がこの課題研究に積極的に参加してくれたから、最後までやりきることができたと思いました。また、簡単にスケジュールを組むことによりその日の動きなどがわかるのでこれからはスケジュールを作るようにしたい。

③この活動を来年も続けるとしたら、自分の意見を持ち積極的に行動して行きたいと思いました。また、もっと地域の人と関わりを持ち名前ぐらいは覚えられるようにしたいと思いました。

<山下 莉野>

①竜丘地区で活動する前は竜丘地区の名前を聞いたことがあるぐらいで正直何があるのかなど何も知りませんでした。それは私だけでなく班のみんなも同じでした。だからこそ私たちの班は何回かフィールドワークに行きました。正直最初の一回目は、初めていく場所だったのでウキウキして鷺流峡など楽しかったのですが、二回目に行ったギブチョウ公園などはあまり楽しくありませんでした。自分が思っていた以上にいろんな場所が竜丘地区にはあり、竜丘地区を知ることが少しできました。

でもゴールが全然見えませんでした。メンマ作り、駄科の夏祭り、様々なことに手を出しましたが、これをもってどこにつなげていけばいいかがわかりませんでした。課題研究は課題を解決していくことまでが課題研究だと思っていたので、解決するどころか、何が課題なのかもわからなくなっていました。松本大学教授の話を聞く会などあった時に「高校生にしかできないことをやる」「自分たちがやって面白いと思わないと周りもつまらない」と聞いたときに、私は商品開発をしたいと思っていました。でも、やりたいと思ったことが課題解決につながるわけではないことに気づきました。そんな時に主事さんの紹介で牧内さんの家に行くことになりました。牧内さんが言った「交流を作るきっかけがほしい」という一言から上川路公民館が空いたためそこで何をしたいのかを話し合い、お菓子を食いたい、お話ししたいとなりお茶会を開くことになりました。まず一回目は、何人来るかなどわからなかったため、何も企画していなかったのですが、最後に歌を歌って第一回目のお茶会が終わりました。初めてなので緊張していたこともありあまり話が続きませんでした。みんなで反省会をした時も話が続かないという意見が多かったので座り方などを話しました。二回目の企画で何するかを話し合い歌や頭の体操をしました。回数を重ねるごとにおじいちゃん、おばあちゃんとも打ち解け、お茶会が楽しくなっていました。

②この活動を通して、場の空気を読み行動することを学びました。今、自分が何をすべきなのか、相手が今何を考えているのかを考えて行動することができました。

③来年も行おうとしたら、もっと前からやることを決めていきたいなと思いました。

かなにゃん

～かなにゃんとその仲間たち～（鼎地区）



【研究メンバー】

今村紗愛 佐藤綾 白上愛佳 関島浩紀
田中瞳 遠矢有成 仲田峻 松島美海
高橋 茂（指導教員）
熊谷隆幸（鼎公民館主事）

【ご協力いただいた方々】

《夢かなえ隊》 木下周次 様 堀本善正 様
緒方宏始 様
《ビーラクス松川》 本田佳介 様
《農家》 安東克洋 様 市瀬昌弘 様 倉田治 様
《鼎公民館》 館長 小西盛登 様

1. はじめに

私たちは鼎のことを知るためにペタンク大会でインタビュー活動をおこなった。そのインタビューから、子どもたちが鼎地区に関心を持っていないことを知った。このことから、子どもたちに焦点を当て、地域のイベントに運営側として子どもたちに参加をしてもらい、関心を高めてもらえるような活動することにした。

2. 研究課題

地域のイベントに運営側として子どもたちに参加してもらい、関心を高めてもらう。



※子どもたちが運営側として参加してもらうことが難しく、課題を途中で変更した。

鼎のゆるキャラである「かなにゃん」を使って子どもたちに興味・関心を持ってもらうきっかけにする。

※平成27年度の課題研究において、当時3年生の鼎グループが考案したものである。

3. 研究経過

4月	鼎地区探索	8月	夕涼みの集いへ参加
5月	夢かなえ隊の方とお話	9月	かなえスターの聞き取り調査
6月	ペタンク大会にて聞き込み調査	10月	料理教室を開催
7月	夕涼みの集いの準備	11月	鼎ふれあい文化祭へ参加



4. 研究内容

・夕涼みの集い【8月9日（金）】

《水鉄砲射的・ヨーヨー・スーパーボールすくい・スタッフの方に甘酒スモーギー提供・

かなにゃんのお面配布》

子どもたちに屋台の運営側に回ってもらいたかったが、準備・時間の関係でできなかった。

このことから目的達成の難しさを知り、課題変更をした。

甘酒スモーギーは、保健所の関係で急遽販売することができなくなったが、無料でスタッフの方に提供して喜んでもらった。

かなにゃん
（リンゴの妖精）

・料理教室【10月27日（日）】

《かなにゃんのクッキー・シャインマスカットのフルーツパンチ・かなにゃんのアニメーション・クイズ》
小学生以下を対象にし、親子で参加してもらった。

かなにゃんを記憶に残してもらうためにお土産にかなにゃんのクッキーの型を各家族に配った。

・鼎ふれあい文化祭【11月2日（土）】

《甘酒・鼎産のリンゴジャム販売・かなにゃんのクッキー作り体験・くじ引き・かなにゃんのお面配布》
もっと多くの人に「かなにゃん」を知ってもらい、鼎地区＝かなにゃんという認識を持ってもらえるように活動した。

5. 考察

・夕涼みの集い

かなにゃんのお面を配布することをチラシに載せた。当日は、子どもたちから「かなにゃんだ!」という声を聞いた。保護者の方から話を伺ってみると、「チラシを見て来ました」という声からチラシの効果を感じた。夕涼みの集いで、かなにゃんを知ってもらうきっかけを作れた。

・料理教室

リンゴの妖精であるかなにゃんを広めるために、県産のリンゴを使ったクッキーを作ることにした。参加してくれた人たちにアンケートを行った結果、大人と子どもの双方から良い意見がもらえた。県地区についてのクイズをかなにゃんのアニメーションに取り入れ、県地区を知ってもらうとともに、かなにゃんについても興味をもってもらえた。

・県ふれあい文化祭

リンゴジャムは完売した。クッキー作り体験は、4家族が参加してくれた。文化祭でも「かなにゃんだ!」という声を聞くことができ、さらに広まったと感じた。

6. 今後の課題

かなにゃんを県地区の公式キャラクターとして認定してもらう。

7. おわりに

私たちは子どもたちに焦点を当てて今まで活動してきた。夏祭りの時には、子どもたちが何度も屋台に来て楽しんでくれた。料理教室のアンケート結果では、良い意見を大人、子どもの双方から頂いた。文化祭では、お面やジャムを見て、「かなにゃんだ!」という声を聞くことができた。このことから、「子どもたちにかなにゃんを使って、県地区へ関心を持ってもらう」という目標は、達成できた。

私たちはこれまでの活動を通して、イベントを企画する際に、大変なこともあったが、参加して下さった方たちが楽しんでいる姿を見て、やってよかったと実感した。夕涼みの集いや料理教室、文化祭でも想定外の事態などもあり、完璧に準備していてもうまくいかないことも多く起こりうるため、その時にどうすればいいのか、臨機応変に対応していく力がこの課題研究を通して学ぶことができた。たくさんの方に支えて頂いた感謝を忘れず、これからこの課題研究で学んだことを自分の人生に生かしていけたら良いと思う。



活動の様子



ペタンク大会で
聞き込み調査！



夕涼みの集い



難しいなあ...



料理教室



文化祭



何が出るかな??





つく かた 作り方

①リンゴのクッキー

材料

- ・ 卵 1個
- ・ 砂糖 大さじ3
- ・ サラダ油 大さじ3
- ・ ホットケーキミックス 200g



- 1、ボウルに卵、砂糖、サラダ油を入れてよく混ぜる
 - 2、そこにホットケーキミックスを入れて混ぜる
 - 3、ひとまとめになったら、ラップではさみ、綿棒で薄くのばす
 - 4、かなにゃんの型で形を作る
 - 5、180度に温めたオーブンで15分焼く
- ※その間にリンゴジャムのクリームとフルーツポンチを作る
- 6、リンゴジャムのクリームをクッキーに塗る
 - 7、完成



工業科の先生に作り方を教えていただいて
製作した「かなにゃんの型」



完成した「かなにゃんクッキー」

「鼎好き」増える場に

生徒自ら企画し料理教室

飯田OIDE長姫
高校商業科の3年生

生徒は、教室に向けては試作を繰り返し、鼎産の食材を使う

8人が27日、高校がある飯田市鼎地区の親子を対象にした料理教室を開いた。地域人教育の一環で生徒自ら企画し、鼎で暮らす子どもたちにも大切に鼎のことをもっと好きになつてもらいたい」との思いを込めた。5月から準備し、リノゴ入りのクッキーを子どもたちと一緒に作ることにした。教室に向けては試作を繰り返し、鼎産の食材を使う

など工夫。6年ほど前に高校の先輩たちが考案したという鼎のイメージキャラクター「かなにゃん」を掘り起こし、クッキーの型枠に採用した。型枠は工業科の協力で、3Dプリンターを使って料理教室のために用意した。



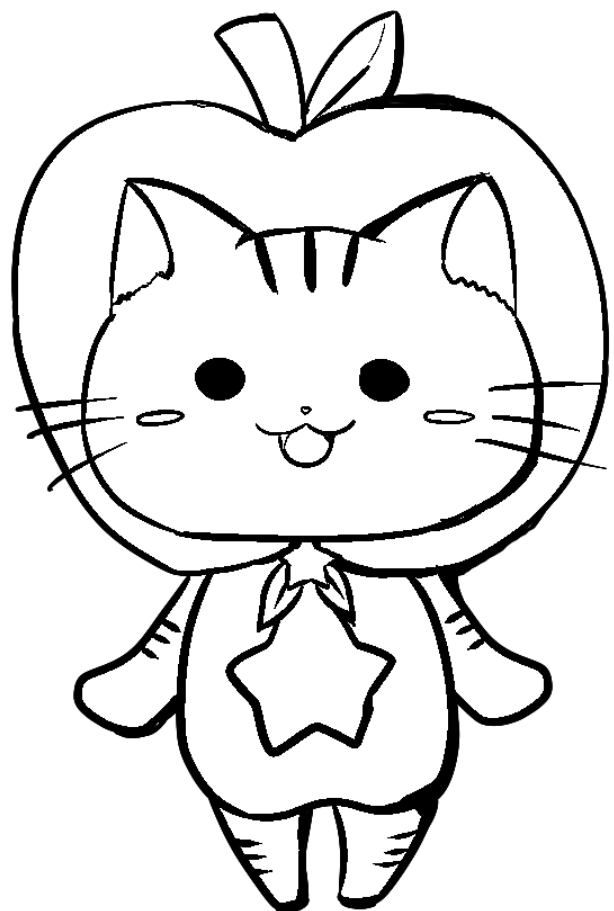
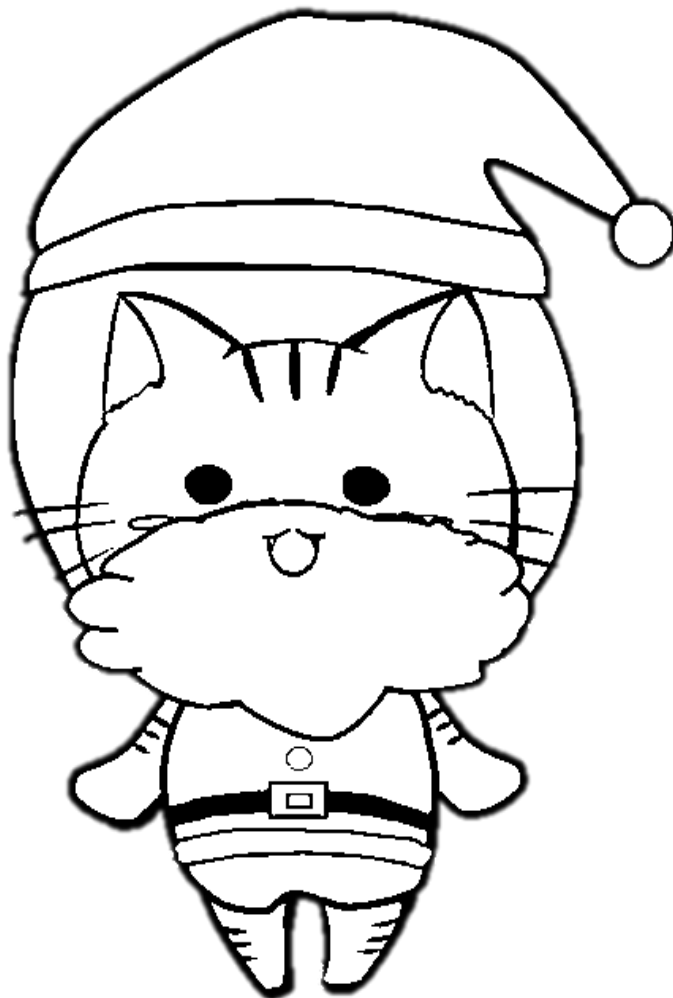
生徒と一緒に調理する子どもたち

南信州新聞

2019年

10月30日付け

かなにゃんのめいえ



I T～それを見たらもっと好きになる～ (テーマ型①)



【研究メンバー】

畑中 美夢 宮田 穂波 太田 るか
佐野 希 槻木 亜侑奈 原 穂乃佳
矢澤 美帆 原 樹里
鈴木 卓（指導教員）

【ご協力いただいた方々】

マロン様 トップ様 飯田東中学校様
HOTAPASTRY様

1. はじめに

私たちはテーマ型ということで、決まった地域に入らず一年間活動をしてきました。テーマ決めをする中で、「飯田市の魅力って何？」という話し合いになりました。飯田市の色々な魅力を出し合い、その魅力について検討してみました。その後、授業の中で飯田市長さんのお話をお聞きする機会があり、飯田市には歴史的財産であるりんご並木があることを知りました。りんご並木に魅力を感じた私たちは、りんご並木をもっと多くの人に知ってもらえるような活動をしていく方向に話がまとまりました。そこでまずりんご並木のりんごを使った商品開発をすることにしました。ですが、りんご並木のりんごを提供してもらえない予定だった飯田東中学校から諸事情により、りんごをもらえないことが発覚し、商品開発を仕方なく諦めることにしました。もう一度話し合いをし、他の方法でりんご並木を含め飯田の魅力を発信していくことを確認しました。そこで以下の4つの活動に取りかかりました。一つ目は飯田市のPR動画の作成です。二つ目は商品開発です。三つめは絵本作成です。四つ目は丘のまちフェスティバルへの参加です。

2. 研究課題

高校生目線の飯田市の新たな魅力の再発見と発信

3. 研究経過

- 4月 テーマ決め
- 5月 フィールドワーク
- 6月 商品開発（りんごを使ったスイーツの開発）
 テーマ再設定
- 7～9月 PR動画の材料集め（飯田市立動物園、風越山麓公園、猿庫の泉、珍味）
 商品開発（いなごを使ったスイーツの開発）
- 10月 絵本作成
- 11月 丘のまちフェスティバル参加（いなごクッキー、いなごゼリーの販売、利き水大会の実施、絵本の展示、パネルの展示）
- 12月 まとめ

4. 研究内容

(1) P R動画作成

飯田市の新たな魅力の発信の為、私たち高校生目線でスポットを厳選。

飯田市立動物園：ふれあい体験や動物のごはんタイムなどの撮影を行いました。

猿庫の泉：名水百選にも選ばれている猿庫の泉の水を飲んだり、詳しい説明などを入れ動画の作成を行いました。

風越山麓公園：もっと多くの人にこの公園の魅力を知ってもらうために、遊具で遊んだり、水遊びをする様子など楽しい動画の作成を行いました。

虫を食する文化：実際に食べている様子を撮影しました。

撮影、調べ学習を行いP R動画の作成。I n s t a g r a mのアカウントの作成、P R動画の投稿。

(2) 商品開発

飯田の珍味を食べやすくするために、いなごを使ったスイーツの商品開発を「フランス菓子マロン」さんと協力をして開発をしました。クッキーはいなごを生地に練りこみ焼きました。ゼリーは猿庫の泉の水を使用したゼリーになっています。

(3) 絵本製作

作成したP R動画で紹介されている場所や食べ物が全部登場するオリジナルストーリーの絵本の製作。

この絵本には飯田市の、猿庫の泉、飯田動物園、山麓公園、りんご並木、そして私たちが開発したいなごクッキーが登場します。

(4) 丘のまちフェスティバル参加

作成したP R動画で紹介されている場所などについてより深く調べ、パネルの作成をして展示しました。

いなごクッキーといなごゼリーの販売をし、どちらも完売しました。お客様にも満足してもらえました。

猿庫の泉の水の効き水大会の実施をしました。聞き水大会には予想を超える多くの方に参加していただきました。この機会に猿庫の泉に興味を持ってもらい、さらに飯田市の名所になればと思いました。

てづくりえほんの展示。子供を中心に多くの方に見てもらうことができました。

5. 今後の課題

- ・飯田の「宝」という部分をもっと強調したかったと思います。
- ・インスタグラムのアカウントをできれば引き継いでほしい。
- ・作った動画をインスタグラム以外に載せられてないから、他でも広められるといいと思います。

6. 終わりに

- ・一度失敗しても気持ちを切り替えて新しいことに挑戦していけば、良いテーマに出会えて、良い人に出会えることが分かりました。
- ・活動を通して、企業に協力していただく際の礼儀や、今後のことを考えてから動くこと、また、やりたいことを実現させる難しさを感じました。
- ・暗記して発表したため、見る人に説得力を与えることができて良かったです。

このテーマで活動することで私たちも飯田市の魅力を知ることができたし、飯田市を好きになれて良かったです。

新商品「イナゴクッキー」・「イナゴゼリー」の開発について

★開発の経緯

飯田・下伊那地域の観光資源を含めた新たなPRポイントを発掘し、それを地元も含め県内外へ発信することにより、飯田の「新しい魅力」として定着させ、飯田市全体の知名度アップにつなげられないかと研究をスタートしました。

様々な視点でその方法を探る中で、飯田・下伊那地方に昔から存在する「イナゴ」「蜂の子」「ザザムシ」「蚕のサナギ」を食べる食文化があることに注目し、その紹介と併せ、それらを使った新しい商品の開発について研究することになりました。

★新商品開発のコンセプト

- ・飯田下伊那地方で昔より、貴重なタンパク源として食されてきた「イナゴ」やその他の「虫」の中から、自分たちで実際に食べてみて、実際の新商品に適したものを開発する。
- ・多くの人から受け入れられるように、食べやすい「クッキー」として、また、よりインパクトの強い商品として「イナゴゼリー」を開発する。
- ・飯田市にある「日本名水100選」に選ばれた「猿倉の泉」の水を使用して、より飯田市のオリジナリティを前面に出した商品とする。
- ・制作にあたり、素材等、加工に難しい点もあり地元の業者さん（洋菓子の「マロン」さん）に、ご協力をいただく。

★作製方法

【イナゴクッキー】

① イナゴをフライパンで煎る

→「カリカリ」とした食感と香ばしい風味を増す



② 〈イナゴを練り込む場合〉

「猿倉の泉」イナゴを包丁で細かく砕く



③ イナゴを細かく砕いたものをクッキー

生地に練り込む



④ クッキー生地の上に煎ったイナゴをのせる



⑤ オーブンで焼いて完成



【イナゴゼリー】

① イナゴをフライパンで煎る

→「カリカリ」とした食感と香ばしい風味を増す



② 水ゼリーを作るための材料と

猿倉の泉の水を準備し、分量を量る



③ 弱火でゼリー状になるまで火

入れていき「水ゼリー」を作る



④ ゼリーのトッピングに使うリンゴを細かく切る



⑤ ゼリーの入ったカップの中に細かく切ったリンゴを入れる



⑥ 冷蔵庫で冷やして完成



風越山麓公園

子供から大人まで楽しめる

<場所>

飯田市丸山町4丁目5510-8

(飯田ICから車で約20分)

<特徴>

広い芝生広場と傾斜面に多くのアスレチック遊具がある

風越山の麓に整備された総合公園

<設備・施設>

マレットゴルフ

さんろくの池(近くの小さな川に「かざこしばし」がかかっている)

<調べてわかったこと>

2016年11月に市の公園施設長寿命化計画に基づき遊具の更新工事が行われました。

新しい遊具のデザインは2次審査を経て決定されました。

1次審査: 各業者から提示された遊具のパス絵を見ながら、地区の小学生達がアンケートに参加するなど、子どもたちの要望も考慮されました。

2次審査: 地元自治体の役員や学校長などでつくる選定委員会によって導入する遊具が決定しました。

小学生の要望が考慮された遊具なのでごく楽しめる！

毎週月・水・金曜日に園内の環境整備活動を管理委員会の方が行っているからとてもきれい！

園内にはマレットゴルフ場もあるため、大人でも楽しめる公園になっています。

みんなぜひ遊びに行こう！



あ



猿庫の泉

各地の茶人、文人墨客の訪れも多く、心のふるさととして年間を通して親しまれている

<泉の歴史は？>

中央アルプス山系の花崗岩質の岩間からの湧き水で、かつては、今庫の泉、野世庫の泉と共に**三庫の名水**と言われていました。猿庫の泉は、昔から茶の湯に適すことで知られ、応永年間、飯田城主の坂西由政は入道として正永と改め、風越山麓円悟沢に結庵して茶道をきわめました。文化文政の頃は、飯田城主堀公も、城内に数寄屋を建て、毎朝、家臣に馬を駆けさせ、この泉の水で茶の湯を点てたという古事があります。

<名水の由来は？>

江戸時代に、茶道家の不蔵庵龍溪宗匠(ふぞうあんりゅうけいそうしょう)が茶の湯に最適な水を求めて諸国を旅していたところ、天竜川下流の水のおいしさに心をひかれ、**川をさかのぼって源流を探し当てた**のがこの猿庫の泉だと言われています。

〈どこにあるの？〉

猿庫の泉は、飯田市の北西に高くそびえる**風越山山麓の円悟沢**に湧出しています。

☆中央自動車道・飯田インターより … 車約6km(約15分)

〈水質は？〉

お茶に適した水と言われている猿庫の泉の硬度は11.0mg/Lから14.0mg/Lの軟水です。水温は10.0度から13.0度で炭酸水素イオン、カルシウムイオン、ナトリウムイオンが多く含まれています。採水地での飲用も持ち帰りも可能です。

〈どこで購入できる？〉

ミネラルウォーターとしては販売されていないようですが、猿庫の泉の水を仕込み水に使った日本酒は複数の蔵元で造られています。こちらは、お取り寄せにも対応しているところもあり、ネットショッピングサイトにて購入できます。

〈イベントはあるの？〉

静かな木立の中に広場やあずまやがあり、猿庫の泉保存会による**野点(のだて)**があります。

・ **5月～10月** ・ **日曜日、祝日** (不定)

〈おすすめの時期は？〉

通年。(特に4～5月は新緑が素晴らしい)

紅葉の季節には色鮮やかなもみじを眺めることができるため、紅葉狩りも最適。

〈どういうお酒に使われているの？〉

喜久水の純米吟醸を仕込水に使用し、信州産(美山錦)を55%まで丹念に磨き上げ、長期低温発酵させました。上品な吟醸香と芳醇な味わいの純米吟醸です。

猿庫の泉を訪れる機会があれば、泉の水で点てたお茶をはじめ、名水を使った日本酒やそばなども味わってみてはいかがでしょうか？

信州珍味

蜂の子

蜂の子は主にクロスズメバチの幼虫です。昔は、貴重なタンパク源として食べられていました。現在では、高級珍味として食べられています。クロスズメバチ以外にも、スズメバチやミツバチ、アシナガバチなども食べられています。

ザザ虫

カワゲラ、トビケラ、ヘビトンボなどの幼虫の総称で、この地域で流れる天竜川で捕れます。環境の変化により、ヒゲナガカワトビケラが主です。高級珍味として食べられています。

蚕のさなぎ

養蚕業・製糸業は日本の近代化を支えた産業で、この飯田・下伊那地域でも非常に盛んで、貴重なタンパク源として食べられていました。現在では、珍味として食べられています。

イナゴ国際連合が推奨している昆虫食で昔は、貴重なタンパク源として食べられていました。イナゴは高タンパク質で低脂肪と、とてもヘルシーです。食感はおえびに似ています。



絵本製作

作成したPR動画で紹介されている場所や食べ物が全部登場するオリジナルストーリーの絵本の製作。

この絵本には飯田市の、猿庫の泉、飯田動物園、山麓公園、りんご並木、そして私たちが開発したいなごクッキーが登場します。



高校生居盛屋「笑歩」(テーマ2)



【研究メンバー】

小西 英瑠真 下平 風月 横道 愛友
石川 詩桜 藤本 里菜 吉沢 優花
後藤 和 横前 瑠美
國松 秋穂 (指導教員)
片岡 博昭 (飯田市役所職員)
脇田 久世 (飯田市役所職員)

【ご協力いただいた方々】

t r a c k w o r k株式会社 吉澤農園様
 カフェ三連蔵様 農園さくら様
 やきまる様 臼井農園様
株式会社テスク「生活菜園」様
旭松食品株式会社様
小野子人参クラブ様

1. はじめに

私たちは、飯田下伊那の良いものを再発見し伝えることにした。食に目を向けた時、私たち自身が飯田下伊那の食材やその良さについて知らないことに気がついた。加えて、中心市街地には居酒屋が多いことに気づき、この2つを組み合わせ、飯田下伊那の食材を使った料理に親しむ場を作ることにした。そして、私たちのようにお酒の飲めないひとでも楽しめる場をつくりたい、そのお店で盛り上がってほしい、と願いを込めて、酒という字を盛るという字に変えて「高校生居盛屋」を開店することにした。

2. 研究課題

- ①飯田下伊那の食材の良さを知らない若者をターゲットとする。
- ②飯田下伊那の良いものを再発見する。
- ③飯田下伊那の食材を使った料理を提供し、良さを知ってもらう。

3. 研究経過

- 4月 チーム結成
- 5月 中心市街地にて聞き込み調査
- 6月 飯田下伊那の良さについて出し合う (ブレインストーミング)
- 7.8月 カフェ三連蔵の近藤さんに協力していただきながら居酒屋開店に向けての準備 (メニュー決め・広告作成・協力店舗探し)
- 9月 店舗名を高校生居盛屋「笑歩」に決定 (みんなで笑って歩いていくという意味)
- 10月 生活菜園の塩澤さんに協力していただきながら仕入れ業者への交渉
第1回開店
- 11月 農家さんへインタビュー実施・飯田下伊那の食材の良さをまとめた冊子の作成
第2回開店

4. 研究内容

飯田下伊那の食材の良さを再発見し、居酒屋を通してそれを提供することで、高校生などの若い世代に食材の良さが伝わるのか研究した。

＜事前調査＞ 中心市街地でフィールドワークを行い、高校生が気軽に入れるお店や、日中開店しているお店が少ないことを確認。

＜開店準備＞ 協力店舗、仕入れ食材など様々な交渉を実施。
広報宣伝活動（広告・SNS・新聞）
メニューの考案

＜開店＞ 10月12日と11月23日に開店。飯田下伊那の食材を使ったメニューの提供。

5. 考察（研究課題は達成できたのか）

①飯田下伊那の食材の良さを知らない若者をターゲットとする。

自分たちの宣伝不足や台風の影響もあり、若者を呼び込むことはできなかった。このことから、①は達成できなかった。しかし、最終的にターゲットの幅を広げ、より多くの人に飯田下伊那の食材の良さを伝えることはできたと思う。

②飯田下伊那の良いものを再発見する。

1年間の活動を通して、生産者の方にインタビューやアンケートを行い、自分たちから飯田下伊那の良いものにふれあうことにより発見できた。また、飯田下伊那の良さはおいしい食材だけではなく、その地域に住む人だということも改めて実感できた。このことから、②は達成できたといえる。

③飯田下伊那の食材を使った料理を提供し、良さを知ってもらう。

2回の居酒屋開店を通して、自分たちが発見した飯田下伊那の食材を使った料理を提供した。当日行ったアンケートでは「地元の新鮮な有機野菜を知れて嬉しかった」「素材の味が楽しめた」「全体のバランスがよく、地元野菜の彩りを感じた」などの意見をいただいた。このことから、③は達成できたといえる。

6. 今後の課題

課題研究を通して私たちは飯田下伊那のたくさんの良いものを発見できた。それは、課題研究でこのテーマを掲げ活動していなければ、知らなかったことだと思う。このことから、日常生活の中でも飯田の良いものを感じることができるようにするべきであると感じた。この活動に携わってくださった方々は1人ひとりが熱い思いを持ち、自らの仕事を愛していた。たくさんの素敵な大人たちに出会えたが、それが地域の人に伝わらなければ意味がない。まず、地域の生産者や販売者、お店の経営者がそれぞれの思いを伝えられる環境が必要だと感じた。

7. まとめ

私たちは課題研究に取り組むにあたり、多くの方々に協力していただきました。地元野菜の生産者の方々や塩澤さん、近藤さんと関わり、私たちは「カッコいい大人」の姿を見ることができました。自分のやりたいことと熱心に向き合うこと、私たちのやりたいことを全力でサポートすること、どれも当たり前のようにこなしていましたが、それは簡単にできることではありません。これから社会に出る私たちの目指すべき姿だと感じました。そして、活動を通して知ることができた飯田の良いものをこれからも大事に、誇りを持っていきたいと思いました。

活動の様子

飯田の魅力書き出し



メニュー決め、試作



居盛屋「笑歩」第一回オープン



生産者の方へインタビュー



吉澤農園



農園さくら



臼井農園



小野子人参クラブ



旭松食品株式会社

居盛屋「笑歩」第二回オープン



信濃毎日新聞 2019年10月11日付け

1年間を振り返って —生徒感想—

居盛屋「笑歩」をやってみての感想は「楽しかった」です。このテーマに決まったばかりの頃は具体的なことがまだ決まっておらず、本当に私たちでできるのかという不安でいっぱいでした。しかし居盛屋開店にむけて具体的なことが決まっていく過程のなかで私は多くの地域の方と出会い、普段は聞くことが無い

いお話を沢山聞くことで不安は少しずつ無くなり、楽しみへと変わっていきました。お話を聞いた地域の方はどなたも仕事に愛情をもち、真剣に自分の仕事と向き合っていました。そんな風に想って仕事をする人が飯田に多くいるということを改めて知ることができて良かったです。今回の課題研究でお世話になった人への感謝を忘れず、学んだこと、感じたことを大切にしていきたいです。(横前 瑠美)

高校生居盛屋をやってみて飯田に住んでいても知らなかった「良いもの」にたくさん触れることができました。最初、高校生居盛屋をやると決めたときは自分たちでできるのかとても不安でした。しかし、お店を貸してくださったカフェ三連蔵の近藤さんをはじめたくさんの地域の方が私たちの活動に興味を持ち、手を差し伸べてくださったことで活動がスムーズに進んでいきました。開店当日は、お店の運営が大変でしたが、みんなで協力して楽しくできたので良かったです。高校生居盛屋をやったことで、飯田の「良いもの」は伝統的な食材だけでなくそこに住む地域の方だということに気づきました。多くの方に支えられ高校生居盛屋「笑歩」を開店できて良かったです。(藤本 里菜)

正直、課題研究を授業として強制的に活動しなければならないのは気が向きませんでした。でも今振り返ってみると、得たものは大きく充実したと思います。飯田のいいものを伝えるというテーマで活動する中で、今まで知らなかった飯田の魅力を発見できました。野菜や果物はもちろんですが、一番の魅力はそれにかかわる生産者や提供者だと感じます。生産者それぞれが熱い思いをもって楽しんでいる、企業の社員の方々も仕事だから働いているのではなく、商品に対する知識やこだわりがあってそれを伝えようとしている。また、それらを様々な形で提供する人たちも生産者の思いが伝わるように、飯田下伊那の食を広められるように、信念を持っているように感じました。自分の仕事を愛し、精一杯働いているかっこいい大人に私もなりたと思いました。(石川 詩桜)

私たちは飯田下伊那のいいものを伝えることをテーマにして活動していましたが、飯田下伊那を知っていくうちにいいものはおいしい食べ物だけではなく、『そこに住む人』だということを実感しました。私自身が楽しんで居盛屋をオープンできたのは、準備にかけた時間やメンバーの存在はもちろん、カフェ三連蔵の近藤さんをはじめ、飯田下伊那に住むたくさんの方の協力があったからこそだと思います。これからは、課題研究を通して知った食材を楽しみ、協力していただいた方たちのような素敵な大人になりたいと思っています。(下平 風月)

私はこの課題研究を通して、たくさんの人に出会いました。最初は、単純に居酒屋をやりたいという思いだけで始まった活動ですが、高校生の私たちだけでは到底できない、大きな企画でした。仕入作業から開店当日まで本当に感謝してもしきれないほどたくさんの人に協力していただきやり遂げることができました。そこで出会った方々の、自分の仕事に妥協せず、強い信念をもって取り組んでいる姿を見て、私もそのくらい熱心になれるものを見つけないかと思うことができました。また、忙しいのにも関わらず、多くの方が、初対面の私たちの活動のためにわざわざ時間をさいてくださいました。その方々に尊敬すると同時に私もそんな大人になりたいなと強く思いました。このように飯田にはかっこいい大人がたくさんいます。これこそが飯田のいいものだ気づくことができたので、それを絶やさず少しずつでもこれから伝えていきたいなと思いました。(横道 愛友)

私たちの課題研究のテーマが高校生居酒屋に決定した時、初めはワクワク感もありつつ、不安のほうが大きかったです。しかし、8人での話し合いの時間で飯田下伊那の良いものを出し合った時、黒板に「居酒屋」という言葉があり、8人全員が「これだ!」と思えたからこそ1年間楽しくやり通すことができました。「居酒屋を通して飯田下伊那の良いものを伝える」というコンセプトで活動してきて、飯田下伊那には良い食材が沢山あることがわかりましたが、なにより「人」が1番だと感じました。1年間の活動を通して出会った人たちは、初めて会う私たちにとっても親身になってくれて、損得なしに関わってくれたことがとても印象に残っています。課題研究は大変なことばかりでしたが、最終的にはやってよかったなと思います。(小西 英瑠真)

私たちは飯田下伊那の魅力を伝えるのを目的に高校生居盛屋を企画・実施しました。その準備段階とやることが決まっていない時に行ったフィールドワークを通して多くの地域の方々が私たち高校生の活動に関心を持っていてくれて、自分の住む地域をとっても大切にしていることがわかりました。その想いを聞き私も気合いを入れて頑張ろうと思い活動をしました。開店当日は多くの方が来てくださりとても嬉しかったです。活動を通して、飯田下伊那は美味しい農産物だけでなくそこに住む方の人柄も大きな魅力だということを知ることが出来ました。準備も開店当日も発表準備も大変でしたが同じ班のみんなに沢山助けってもらって無事終わることができました。班のみんな、脇田さん、片岡さん、先生、協力してくださった地域の方々本当にありがとうございました。(後藤 和)

一年間の課題研究を通して、沢山の出会いや学びがあったと思います。始まった当初は、面倒なのになぜやらなければならないのか、また私たちはテーマ型なので自分たちのやりたいことと地域課題を結びつけることが難しく、課題研究をする必要性を感じられませんでした。しかし、居盛屋を開店するという具体的なテーマが決まり、積極的に課題解決に向き合えるようになりました。アイデアを出し合っていくうちに、私たちにもできることがあるとワクワクしました。時には私たちだけの力ではどうにもならないことがあり、諦めたり嫌になったりしましたが、沢山周りの方々にサポートして頂き、何度も壁を乗り越える事が出来ました。大変な事の方が多く、無事に開店をして地域野菜の魅力を伝えられるのか不安でしたが、沢山の「カッコいい大人」に協力して頂き、何より班の一人ひとりが主体性を持って行動できたからこそ最後までやり通す事が出来ました。協力して下さった皆様ありがとうございました。(吉沢 優花)

飯田市公民館
片岡 博昭さんより

「飯田の良いもの」は見つかりましたか？

野菜、果物、お店、カフェ三連蔵の近藤サトルさんはじめ、皆さんの活動にそれぞれの立場で協力・応援してくれた方々…色々な場面が浮かぶことと思います。何かをPRしようとするとき、いちばん大切なことは、自分自身がその良さを実感していることです。一見何も無いようで、何かあるのが飯田です。それは探そうとしなければ見つからないかもしれません。楽しみながら探すための1年間だったのかなと思います。もしかしたら、まだ実感しきれない人もいないかもしれません。でも大丈夫、これから様々な経験をする中で見えてきます。改めて、あなたが思う「飯田の良いもの」は何ですか。

飯田市公民館
脇田 久世さんより

皆さんは居盛屋「笑歩」の活動は楽しかったですか？はじめテーマ型の班で何からしていいかわからず、何となく「りんごジャム」を作ってみることに。生徒の自主性を。失敗することも勉強と言われながらも大丈夫かな？何をしていく事になるのかな？とドキドキしていました。この班には先生も主事もいて私までがいる。大人

が多い分自分の出来ることは何だろうとみんなも考えたようなことを思いながら参加していました。この活動を通じて、自分の事も大事。だけれどもみんなの活動を支えてくれた近藤さんたちのように、他の人の為にも動ける人がかっこいい大人だといっていた皆さん。今度は自分達が近藤さんのようになれるように、そのためにはどうすればいいのか。色々な経験をしていかないとできないと思うので、ちょっと気になるもの、どうしようかなと思ったら挑戦してみてください。そして、三連蔵や飯田市公民館に遊びに来てください。皆さんと居盛屋「笑歩」をできて楽しかったです。

生活菜園
塩澤 忠文さんより

今回は高校生居盛屋に関わらせて頂き有り難うございました。

地元の食材についてとの事で学校へ伺いましたが、その場で居酒屋をやってみたいとの話で、高校生？居酒屋？と驚きと共にその意外性に興味も沸き、こういった協力ができるかとあれこれこちらも思案致しました。

何度か私のお店にも来て頂き、いろいろな種類の野菜を見て頂き、実際に調理し、味や彩りを試してもらったなかで、それぞれの野菜の個性に興味を持ち、実際に生産者の所へ行きインタビューやアンケートを行い、単に食材を調理するのみではなく、そこに至るストーリーにも関心を持って展開できたのは、より居盛屋の魅力に繋がったと思います。

開店に伴い、台風などの心配もありつつも OPEN でき、食事その過程も含めて楽しく美味しく頂く事ができました。話題性や魅力ある活動でしたので、是非継続して行ける機会があると良いですね。ありがとうございました。

カフェ三連蔵
近藤 サトルさんより

【居盛屋『笑歩』× カフェ三連蔵 / 旨肉酒場 やきまる】

軽い立ち話から始まったこの企画。

最初はどの様にまとめたらいいのか、実店舗でお客様相手に展開しても良いのだろうか、などみんなの自由な発想に戸惑いましたが、共に活動していく中でこの子達のやりたい様にやらせてあげたい、むしろ忘れていたモノ・コトなどの気づきが自分の中にもあり、みんなでとにかく楽しんでやろう！というモチベーションになれた様に感じます。

提供した商品のクオリティや売り上げという観点ではない目に見えない何かを体感できました。あえて表現するなら“人と人”でしょうか、…。

突っ込みどころは沢山ありますが、もし今後もこの様なお話ありましたら是非参加させて頂きたいと思っています。

みんなありがとう、素敵な未来を！

ミンナの知らないスパイスカレーの世界（テーマ型Ⅲ）



【研究メンバー】

伊藤 楓 今井 麻那 宇野 莉奈
小木曾 華穂 鹿養 れい 南井 賢大
宮下 怜也 山下 響美
河野 繁（指導教員）

【ご協力いただいた方々】

アジアごはんとスパイスカレー アドゥマン 様
株式会社 週休いつか 様

1. はじめに

スパイスカレーはぐるなび総研が選出する 2019 年今年の一皿にノミネートされるなど、全国的な広がりを見せけている。しかし、飯田市にはスパイスカレー専門の店は一軒もなく、地域の方の認識度も非常に低い。そこでスパイスカレーの魅力を地域に広めるための活動を行うことにした。

2. 研究課題

飯田市であまり知られていないスパイスカレーの魅力を広める。
そのためにスパイスカレーを用いた地域の方との交流を行う。

3. 研究経過

- 5 月 テーマ設定 スパイスカレーの知識を深めるための研究
- 6 月 スパイスカレー試作 スパイスカレーに関する筆記テスト
- 7 月 スパイスカレー試作 地域公開講座へのスパイスカレーの提供 文化祭でのアンケート調査
- 8 月 アジアごはんとスパイスカレー アドゥマンさんによるスパイスカレー講習
- 9 月 華麗なる音楽祭にてスパイスカレーの提供
- 10 月 スパイスカレー試作 スパイスカレー教室 1 回目の実施 O I D E S P I C E の商品開発
- 11 月 丘のまちフェスタでの販売 スパイスカレー教室 2 回目の実施
- 12 月 地域公開講座へのスパイスカレーの提供および販売

4. 研究内容

（1）スパイスカレーを知る

スパイスカレーについての知識をつけるため、文献や映像を調べ研究を行った。学んだ知識は模造紙にまとめ、地域の方と交流する際に発表を行った。来場者にスパイスカレーの魅力を知っていただくことができた。

（2）スパイスカレーを作る

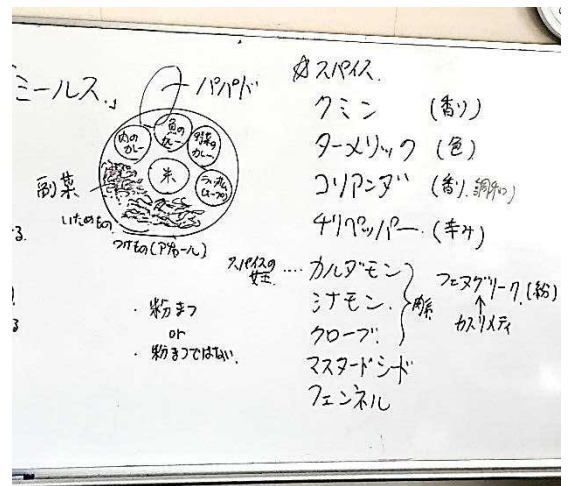
「スパイスカレーは本格的過ぎて難しい」、「辛そう」というアンケート結果が多かったことから一緒に作って食べるスパイスカレー教室を実施した。高校生が講師役を務め地域の方との交流を深めることができた。

（3）スパイスカレーを食べる

手近にスパイスカレーを食べ続けていただくために、オリジナルスパイスを商品開発し販売を行った。分量やレシピにこだわって開発を行った結果、「家でおいしく作りました」などの嬉しい感想が寄せられた。

5. 考察

私たちは、飯田市にスパイスカレーの魅力を伝えるために様々な活動をおこなってきた。それぞれの活動ごとに行ってきたアンケート調査や活動の中で交流した人の生の声から「おいしかった」「ルーのカレーよりスパイスのカレーのほうがいい」というようにスパイスカレーを好きになってくれた方が多く、中には、どっぷりとはまってしまった方々もいることから、スパイスカレーの魅力は十分に伝えられたといえる。また、活動を始めた当初、「やりたいことをやっているだけ」「地域のためになっていない」と言われてしまうのではないかと不安を感じていたが、アンケート調査した数248人、スパイスカレーを食べていただいた方313人、OIDESPICEを販売した数127個という数値が示すように多くの地域交流ができたといえる。さらにその中で、スパイスカレーを好きになってくれた方や、スパイスカレーによって幸せを感じてくれた方、スパイスカレーを楽しそうに作ってくれた方やおいしそうに食べてくれた方がいらっしゃり、笑顔を見せてもらえたことで、私たち自身も「この活動には意味があった」「活動をしてきてよかった」と感じることができた。私たちは、今回の活動を通して魅力を伝えるための発信力や地域交流のために必要なコミュニケーション能力、主体性などの力が身についた。スパイスカレーの知識ももちろんだが、スパイスカレーを通して地域に貢献したい、地域に住んでいる方を幸せにしたいという気持ちを持てるようになり、様々な面で成長できたといえる。



6. 今後の課題

私たちのおこなってきた活動によりたくさんの方にスパイスカレーの魅力を伝えてきたが、地域全体には定着できたとは言えない。私たちは、スパイスカレーには、私たちが予想した以上に大きな魅力があり、その魅力を伝えることができれば、もっと多くの地域の方を幸せにできると考える。よって、次年度もこのスパイスカレーの研究を継続し、スパイスカレーのお店を出店したり、OIDESPICEを継続して販売したりするなどして、もっとたくさんの方々にスパイスカレーの文化を定着させていってほしい。

7. まとめ

私たちの課題研究は過去の先輩方の発表とは異なり、前例のない研究だった。そんな中で、私たち一人一人がスパイスのように個性や長所を発揮し、それが一つに組み合わさることによって、私たちにしかできない課題研究を作り上げることができたと思う。また、この課題研究は、私たちの力だけでなく、私たちの活動に携わっていただいたすべての皆さんのおかげで成り立った。その感謝を忘れず、今回の研究で得た経験を生かして、また別の形で地域に貢献できるようにこれから成長していきたい。



スパイスカレーについて

スパイスカレーとは

ルウを使わず様々なスパイスを組み合わせて作るカレー

スパイスカレーはルウを使わない分、油と小麦粉を抑えることができスパイスの効能によりダイエット効果や美容効果があり、美味しいのにとっても体に良い料理。

スパイスの効能

クミン	→香り、消化促進作用
カルダモン	→香り、ストレス軽減
シナモン	→香り、むくみ予防
ブラックペッパー	→香り、辛み、便秘解消
コリアンダー	→香り、胃腸のトラブル緩和
チリ	→辛み、脂肪燃焼
ターメリック	→色、二日酔い改善

地域によるカレーの違い

北インド

牛乳や生クリームなどを使用しているためこってりと濃厚で、油分が多いのが特徴。

南インド

カレーは水分が多く、シャバシャバしている。あっさりしていて、酸味や辛みが強いのが特徴。

スリランカ

ココナッツミルクを多く使用しており、島国のため魚介類を使ったカレーが多いのが特徴。

スリランカのカレーは主食から副菜までワンプレートにのせて混ぜて食べるのが一般的

ネパール

マイルドで食べやすく、豆を使ったカレーが多いのが特徴。

ネパールにはダルバートと呼ばれる伝統的な家庭料理がある。

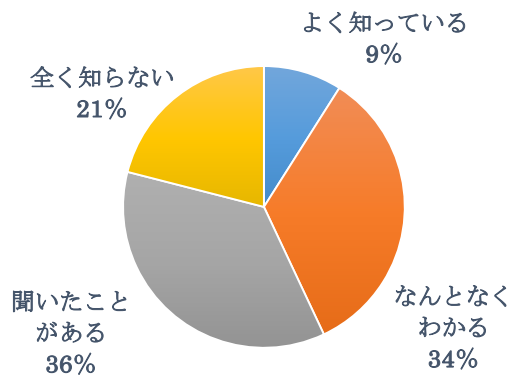
ダル＝豆スープ

バート＝米飯

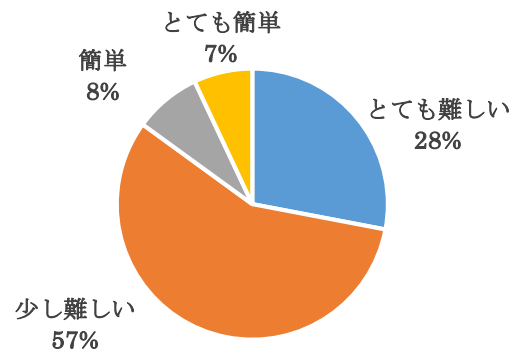
スパイスカレーの認識調査結果

文化祭を利用し 10 代～60 代の方 170 人に認識度についてアンケートを実施

スパイスカレーを知っているか？



スパイスカレーは簡単に作れるか？



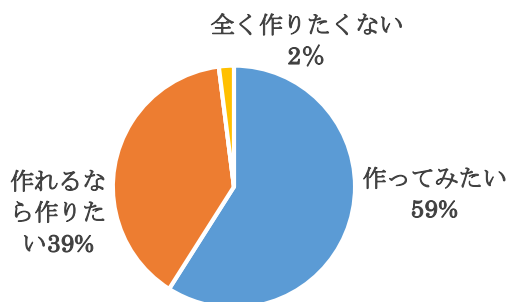
<考察>

スパイスカレーについて知っているか聞いたところ半分以上の方が知っていないということが分かった。また、簡単につくれるかという問いには多くの方が難しいと答えており、スパイスカレーについて正しく知ってもらう必要があると感じた。

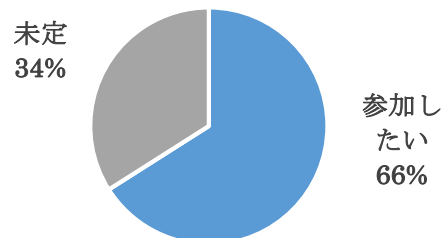
スパイスカレーを作ってみたいか調査結果

地域公開講座を利用し、スパイスカレーの試食会を実施。実物を見ての認識を調査

スパイスカレーを作ってみたいか



生徒が主催するカレー教室に参加したいか



<考察>

実際にスパイスカレー試食していただいたところ、作ってみたいと興味を示してくれた方が多くいた。また、生徒が主催する料理教室があったら参加したいと答えてくれたが多く、スパイスカレー教室の実施の計画を行うことにした。

「スパイスカレー教室」受講者の感想

- ・家族で作りたい
- ・同じ材料でも味や香り方が違ってくるので奥が深い
- ・食べたら代謝が上がって汗が出てきました。体にいいなって実感です
- ・自分なりのアレンジやその時の気分でいろいろできる自由が最高
- ・いろんな用語を教えてくれてよかった

スパイスセットを購入し実際に作られた方の感想

- ・レシピに添っておいしくできました
- ・スパイスカレーを初めて食べておいしかった
- ・今はスパイスカレーのほうが好き
- ・ルーのカレーもスパイスのカレーどちらも好き
- ・また機会があれば買いたい



まとめ

スパイスについてアンケート調査した数 248 人、試食などスパイスカレーを食べていただいた方 313 人、OIDESPICE を販売した数 327 個と私たちの活動によって、非常に多くの方にスパイスカレーの魅力を伝えることができた。

スパイスカレーを通して地域の方たちの笑顔が見られたことでこの活動に意味があったと実感することができ、活動をしてきてよかったと感じた。

一人一人がスパイスのように個性や長所を発揮しそれが一つに組み合わせることによって私たちにしかできない課題研究を作りあげることができたと思う。

OIDE SPICE 開発の経緯

「スパイスがどこに売っているのかわからない」「複数そろえるのは大変」という意見があったことから、地域の方にスパイスを簡単に手に入れ、作って食べてもらいたいと考えた。そこで私たちがスパイスセットを商品開発しレシピをつけて販売した。

-----《キーマカレーのレシピ 辛くない（4人分）》-----

材料

○玉ねぎ・・・2個 ○塩・・・小さじ1 ○にんにく…1かけ
○トマト缶・・・1缶（400g） ○ひき肉・・・300g ○しょうが…1かけ
○ヨーグルト・1カップ（100g） ○水・・・300g
○スパイス・・・25g(袋の半分)
（☆クミン 6.5g ☆ターメリック 6.5g ☆コリアンダー12.5g）

レシピ



…弱火



…強火

①玉ねぎを粗みじん切りにする

②フライパンで油を温める

 弱 （ここでクミンを一緒に温めると
香りが出る＝テンパリング）

③玉ねぎを炒める

 強 （塩を少し加え、水分を飛ばす）

④にんにく、しょうがをみじん切りにする

⑤玉ねぎがきつね色になりカレーロードが出来たら、にんにく、しょうが、トマト缶、ヨーグルトを入れて全体を混ぜる。
（この時に、トマト缶のトマトを潰しながら水分を飛ばす）

※カレーロード

木べらで引くと
道ができる



⑥一度火を止め、スパイスと塩を入れる
1～2分炒める



⑦ひき肉を入れて混ぜる
弱

⑧ひき肉に火が通ったら、
水を入れて全体に混ぜる
（水を入れることで全体がなじむ＝乳化）

⑨水分を飛ばして好みのとろみにする

⑩最後に塩と水で味の調整をすると完成



地域人教育に今年度ご協力いただいた方々のご感想

【りんご並木まちづくりネットワーク】 コーディネーター 桑原 利彦 様

『これからの社会に必要なことってなんだろう』

今年度の地域人教育のプログラムも様々な人の繋がりを生み出す中で一区切りとなりました。

僕の関係するりんご並木のイベントも年度中の事業を終え既に来年度に向けての計画作りに入っています。そのイベントに多くの生徒さんたちがお手伝いに・・・今やお手伝いという域を越え、場を仕切ってくれることも(笑)・・・まさに中心市街地の活性化に大きく関りそれを通じて多くの大人と繋がり対等とも言える関係が生まれています。イベント内容は毎年同じようなものでありながらも生徒は代わっていくのですが、先輩から受けついできた『心構え』は確実にアップしていることをとても嬉しく感じます。

最も社会との距離があると思われる高校時代にこのような関係性で社会と繋がることの意味は我々が考える以上に大きくまた重要であるのではないのでしょうか。仕事の現場で能力は高いと言われながらも、先輩たちから、一緒に仕事をし辛い、付き合い辛いと言われる最近の若者たち。個性（個人）を尊重され、生身で人と接しなくてもインターネットを通じてやり取りができてしまう時代で育ってきた人たちにとっては、付き合いそのものが煩わしいと感じられるのでしょうか。

今後、技術の進歩と共に人間のやっていることはほとんどAI（人工知能）にとって変わると言われています。そんな世の中で人間が人間であるために何を大切にし、また人間にしかできないこととは何なのかをあきらかにすることは重要な課題です。その答えはまさにその煩わしいと思われている人間関係の中にあると考えます。

顔や態度から心の内を感じながらの意見のやり取り、そこで生まれる想いの共有、皆で作る優しさに溢れたコミュニティー、それらはAIにはけっしてできないものだと思うのです。AI社会を目前にした現代において、人格の形成にもっとも影響するだろうと思われる高校時代にスマホやパソコン内でのバーチャルな世界ではなく『現実』の中で超アナログ的な経験をするには本当に有意義なことだと思います。人間は環境に特に左右される動物です。今の若者がポテンシャルはかなり高いのに扱いづらいと思うのは、人との関りが希薄な環境で育ったからではないのでしょうか。学びの時期に関わりを持たない社会の責任とも言えます。その証拠に地域人教育のカリキュラムを経験した高校生たちの社会性は本当に高いと感じさせられるのです。そんな生徒と一緒に作る地域イベントは僕たち大人にとっても色々なことを学ぶ場所となっています。

これからの社会にとって最も大切なことを学ぶ場を提供してくれる地域人教育にこれからも是非関わらせていただきたいと願っています。

【東野公民館】 館長 松澤 卓治 様

『OIDE 長姫高校地域人教育に参加して』

生徒たちは東野地区柏原産野菜を足掛かりに地域に関わろうと決め、一方公民館主事、生産者たちは成果を作り出せるようにと肩に力が入る。ぎこちなくスタートしたプログラムも生徒の飾らない取組みに生産者、地域の大人は次第に引き込まれ、自分の子供とプログラムを進めるような感覚になる。柏原産野菜を消費者にどのように伝えようかと悩んでいた生産者たちは素直に地区に飛び込んで行動する生徒たちを見て、躊躇していた背中を押され、「自分たちも出来る。考えて

いるだけでなく行動しなくては！」と一歩踏み出せた。取組む姿で大人たちの意識改革もした生徒。他地区では高齢者の為に居場所を作った生徒たちの活動で、その居場所を「自分たちで続けていこう」と背中を押された高齢者たち。プログラムに参加した両者が互いに刺激しあった。生徒にとって地区での活動は忘れられない経験になっているはず。忘れられない地区になっているはず。知らない地区で知らない大人とコミュニケーションをとる難しさを克服した生徒たち。満面の笑顔の生徒と大人。言葉の会話を超え、心の会話をした生徒と大人。

地域人教育の目指す形の一つができ始めたように思います。

【(株)週休いつか】 地域協働学習実施支援員 代表取締役 新海 健太郎 様

私は地域の一企業人として地域人教育に関わらせていただきました。授業のほか、インターンシップをきっかけに地域づくりに関心を持ち、校内外で活動を広げる学生の応援もしました。いずれも明確な答えが用意されている場ではありません。

「近い将来、大半の職業がなくなる」などとまことしやかに囁かれるような不確実性の高い社会となり、先行きがいつそう読めなくなっています。このような状況では計画的偶発性理論が有利です。これは偶然を計画的に設計し、良い結果を導こうというものです。言い換えれば「場当たり力」が大切ということです。

今年度も失敗と成功がありましたが、明確な答えを持たないテーマでは当然のことです。ちなみに答えのない世界で課題を発掘分析し、策を考え実装するというのは企業活動そのものです。そして、どのプロセスがどのような結果をもたらすか、不確実性が高いほど読めません。そこでは最適解を目指して、都度、次の思考を巡らせる繰り返しがあるのみです。

一方でこれは「場当たり力」を磨くチャンスです。関わりをもった学生には社員同様に愛情と情熱を注ぎ、この「場当たり力」を磨くお手伝いをさせていただきました。

【座光寺公民館】 主事 三ツ井 洋樹 様

『地域人教育で願うこと』

今年度は主に9名の公民館主事が、多くの生徒の皆さんや先生方と共に活動してきました。

地域人教育が目指すのは、「地域理解を深め」、「地域での生き方を考え、郷土愛を育み」、「地域活性化や地域社会に貢献できる」人材の育成です。これは、高校3年間だけで、ましてや地域人教育だけで成るものとは言い切れません。

しかし、生徒の皆さんが、地域をフィールドに探究し、地域の人との交流や協働の中から、少しでも「自ら考え、行動する」姿勢で活動できればと願い、主事は“地域の人”をつないでいます。

また、グループのメンバーや協働する地域の人たちと互いの考えや価値観をすり合わせながら、一つのことに取り組んでいく。その過程を大切にしながら、生徒の皆さんと一緒に考え、悩み、取り組んでいます。

今年度、公民館主事がその役割を全うできたとは言えませんが、少しでも目指す姿に近付けるように、生徒の皆さんと関係性を築きながら共に考える姿勢でありたいと思っています。

地域人教育の特長である“地域で学び実践する”ことを、これからも多くの高校生に経験してもらい、この経験をもとに、ぜひ、次なるステージで活かしていただきたいと思います。



令和元年度 飯田OIDE長姫高校 地域人教育成果発表会 発表内容

順番	発表時間	発表テーマ	担当生徒	担当	地区
1	9:15	1年生地域人教育活動報告	鎮西 富永 林 平松 松原 西川 澁谷 北原 木下 桐生 龍口 吉川	林	1年生
2	9:28	2年生地域人教育活動報告	岩崎 宮毛 宮下 安藤 羽場 南坂	鈴木	2年生
3	9:41	こうこうせいといっしょ ～90分のtea time～	小木曾 小池 坂井 佐藤 澤口 壬生 宮下 山下	林	竜丘
4	9:54	OIDEよ！みんなの丘	大牧 岡田 木下 熊谷朱 熊谷夏 小林 斉藤 中原	山田	橋北
5	10:07	ミンナの知らないスパイスカレーの世界 ～もう普通のカレーには戻れない～	伊藤楓 今井 宇野 小木曾 鹿養 南井 宮下怜 山下	河野	テーマ型Ⅲ
6	10:20	かなにゃん ～かなにゃんとその仲間たち～	今村 佐藤 白上 関島 田中 遠矢 仲田 松島	高橋	鼎
		休 憩			
7	10:50	座光寺を食べよう！ ～交流の場と景色を添えて～	石原 伊東 加藤 鞍馬 塩澤 平沢 本多 米山	原	座光寺
8	11:03	心もお腹もいっぱい ～甘くて柔らかい柏原産野菜に恋をしたっ♡～	石田 伊藤愛 太田 小沢 加藤 木下 菅沼 古井	植原	東野
9	11:16	IT (IIDA Treasure) ～それを見たらもっと好きになる～	太田 佐野 槻木 畑中 原樹 原穂 宮田 矢澤	鈴木	テーマ型Ⅰ
10	11:29	いっしょに松尾を盛り上げよう！ ～みんなでつくる地域～	鎌倉 北村 中原 中山 西尾 原 三嶋 宮下晴	武藤	松尾
10	11:42	高校生居盛屋「笑歩」	石川 後藤 小西 下平 藤本 横前 横道 吉沢	國松	テーマ型Ⅱ
12	11:55	頑張れ橋南！いいぞ橋南！！ ～僕らの橋南room～	石原 宇井 熊谷 小池 所澤 須山 林 米山	越	橋南

PR

飯田OIDE長姫高校 地域人教育

facebook



地域人教育の情報発信中です。



右のQRコードを読み取り、ぜひご覧ください。



地域人教育ポスター



令和元年度
飯田OIDE長姫高等学校

「地域人教育」活動報告集

発行日 令和2年2月28日

編集・発行 長野県飯田OIDE長姫高等学校 商業科
〒395-0804

長野県飯田市鼎名古熊2535-2

TEL 0265-22-7117(代)

FAX 0265-53-4995

印刷 龍共印刷株式会社 200部